日本統計学会会報

2021.07.31 No. 188

発行―― 一般社団法人 日本統計学会
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F
公益財団法人 統計情報研究開発センター内 日本統計学会事務局
Tel & Fax : 03-3234-7738
編集責任―大森 裕浩（理事長）／加藤 昇吾（庶務理事）
小池 祐太（前広報理事）／中島 上智（広報理事）
明石 郁哉（前広報委員）／城田 慎一郎（広報委員）
鎌谷 研吾（前広報委員）／高橋 慎（広報委員）
振替口座―00110-3-743886
銀行口座―みずほ銀行九段支店普通 1466879番

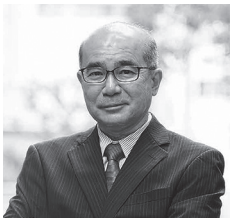
JAPAN STATISTICAL SOCIETY NEWS

目次

1．会長就任のご挨拶……樋口知之…1
2．会長退任のご挨拶……川崎 茂…2
3．理事長就任のご挨拶……大森裕浩…3
4．理事長退任のご挨拶……山下智志…5
5．第26回 日本統計学会賞について …川崎 茂…6
6．第１回 日本統計学会中村隆英賞について ……川崎 茂…6
7．第17回 日本統計学会統計活動賞について ……川崎 茂…9
8．第17回 日本統計学会統計教育賞について ……川崎 茂…10
9．第15回 日本統計学会研究業績賞について ……川崎 茂…11
10．第35回 小川研究奨励賞について …川崎 茂…12
11．第３回 細谷賞授賞について ……照井伸彦…13
12．2021年度統計関連学会連合大会のお知らせ（第三報） ……久保田貴文・西井龍映・坂本 亘…14
13．2021・2022年度会長選挙開票報告 ……明石郁哉・田上悠太……20
14．理事会・委員会報告（2021年５月８日開催）…20
15．理事会・委員会報告（2021年６月12日開催）…22
16．社員総会報告……23
17．博士論文・修士論文の紹介……30
18．JSS Research Series in Statistics からの新刊情報 ……31
19．教員公募……31
20．学会事務局から……32
21．投稿のお願い……33

1．会長就任のご挨拶

樋口 知之（中央大学）



この度，学会の所定の手続きを経て，2021年６月の理事会において日本統計学会会長に選出されました．長い歴史をもつ伝統ある本学会の会長に選ばれ，責任の重大さを思うと身の引き締まる思いです．本学会では，統計学の発展・普及のために様々な活動が行われてきました．例えば，本学会は，統計関連学会連合への参加およびJapanese Journal of Statistics and Data Scienceの刊行を通じて，他の関連学会と協働しています．また，統計教育の面では，大きな成功をあげています統計検定の実施への協力，統計教育委員会による統計教育の発展・普及の活動などが行われています．大森裕浩理事長を始め，理事，監事，委員会等の皆様のご協力をいただきながら，微力ではありますが，本学会及び統計学の発展のために力を尽くしてまいる所存です．どうぞよろしくお願い申し上げます．

2012年，物体画像認識の精度を競う国際コンテストで，他のチームがエラー率26％前後のところ，トロント大学チームが深層学習によりエラー率17％弱とダントツの認識率を示しました．また，オバマ政権がビッグデータ研究開発のための戦略プラン（通称，ビッグデータイニシアティブ）を発

表したのも2012年になります．よって2012年は，第三次 AI ブームの起点と言えるでしょう．2012年当時から，ビッグデータ時代の到来が統計周辺の科学に大きなチャンスをもたらすことを確信していた私は，統計数理研究所の所長としての役回りも意識しつつ，各種メディアからの取材に積極的に対応し多くのメッセージを発信しました．軌を一にする先生方とともに日本学術会議や情報・システム研究機構から，データサイエンティストの育成を加速する具体的な施策を提案いたしました．その後それらの提言は，６大学コンソーシアムを含めた文部科学省による複数の国プロの実現につながっていきました．

現在，国公私立を問わず，数多くの大学でデータサイエンスを専門とする学部などが設置され，その勢いは今も全く衰えることはありません．高校においても AI やデータサイエンスの教育が本格化し始めています．企業からの AI やデータサイエンスに関わる人材へのニーズは膨れ上がる一方です．統計学は AI やデータサイエンスの基盤であることは誰もが認めるところであり，その点からすると統計学にはこれまでにない追い風が吹いています．しかしながら，学会活動の観点からすると，その追い風をうまく受け止めていないのではないかと私は憂慮しています．事実，会員数はこの10年間ほとんど変わらず，むしろ微減しています．周辺学会と比べると若手の割合も少ない気もしています．

本学会に限らず学会をとりまく環境は複雑化しており，その将来はかなり不透明です．コロナ禍により，昨年度と本年度，二年続けて統計関連学会連合大会が完全オンライン開催となりました．最先端の知識は，分かりやすく解説した情報が無料ですぐに得られる時代に，学会という社会組織に帰属するメリットは自明でなくなりつつあります．学会の重要な機能として，人的ネットワーキングがあります．会員と会員が実際に出会う場があれば，自然と多面的な交流が予期せぬ形で生まれます．一方，オンラインによる講演会，研究会，ワークショップなどの開催は，地理的距離や専門領域を超えて，これまでにない多くの方々へ統計学に関する情報を直接届けることができるようになってきました．私が会長を務める二年間では，将来の学会のあり方を考えつつ，「with コロナ」時代の学会活動を会員の皆様方と構築していきたいと思っています．今後も，皆さまとともに力を尽くしたいと考えております．どうぞご支援ご協力を賜りますよう，よろしくお願い申し上げます．

会長略歴：

樋口知之（ひぐち　ともゆき）

現職　中央大学理工学部教授 /AI・データサイエンスセンター所長

1989年　東京大学理学研究科博士課程修了，同時に理学博士号取得

1989年　文部省統計数理研究所予測制御研究系助手

1994年　同研究所助教授，2002年　教授

2011年　統計数理研究所長および情報・システム研究機構　理事

2019年　中央大学理工学部教授

2020年　中央大学 AI・データサイエンスセンター所長

2020年　厚生労働省　卓越した技能者（現代の名工）職種：データサイエンティスト

研究分野：ベイズモデリング・データ同化

２．会長退任のご挨拶

川崎　茂（日本大学経済学部）

去る６月12日の社員総会をもって会長としての任期を終えました．この２年間，山下智志理事長，理事・監事，代議員の皆様を始め，会員の皆様のご協力のおかげで会長としての務めを果たすこと

ができました．皆様からのご支援に対し，心よりお礼申し上げます．

この２年間で印象に残っていることがいろいろとあります．その一つは，欧文誌及び和文誌の一層の充実です．従前の学会欧文誌を発展的に継承した Japanese Journal of Statistics and Data Science（JJSD）（発行：統計関連学会連合）は，発刊以来 Editor-in-Chief を務めておられる青嶋誠理事のご尽力により，国際的に高い評価を着実に確立しつつあります．また，和文誌についても吉羽要直理事のご尽力により，一層充実したものとなっています．この場を借りて，両理事のお骨折りに感謝申し上げます．

昨年６月，学会では「統計教育体制整備に関する緊急特別措置提言」をとりまとめ，萩生田紘一文部科学大臣に提出しました．日本における統計学の研究・教育コミュニティの規模が諸外国に比べて著しく小さく，教育体制に後れを取っていることから，多数の統計学教員を集中的に養成するための措置を要望しました．幸い，関係者のご尽力により，文部科学省において予算も確保され，本年度から「統計エキスパート人材育成プロジェクト」が立ち上がりました．ご協力いただいた皆様に厚くお礼申し上げます．

同じ昨年６月，日本統計学会中村隆英賞が創設されました．これは，第18代会長を務められた故中村隆英先生を顕彰して設けられたもので，今年度に第１回の賞が授与されます．この賞の基金として，中村先生の奥様から学会に多大なご寄付をいただきました．この場を借りてお礼を申し上げます．中村先生は，経済統計において卓越した業績を挙げられたことから，表彰の対象は，経済統計の研究及び実務又は関連分野の理論，手法等の発展に関し多年にわたり顕著な功績のあった個人とされています．この賞が，この分野を中心として研究，実務等に携わる方々の励みになることを期待しています．

任期中にはコロナ禍のため，2019年度の春季集会は中止となり，大変残念なことでした．2020年度はオンライン開催でしたが，山下理事長，稲葉由之理事，小山慎介大会委員長を始め，皆様の多大なご尽力により，円滑に実施することができ，大変感謝しています．コロナ禍はまだ尾を引きそうであり，今年の連合大会も変則的となると見込まれ，関係の方々にはご苦労の絶えないことと思いますが，よろしくお願いいたします．

学会の活動は，多くの方々の真摯なご貢献に支えられていることを改めて感じます．お世話になった皆様のお名前すべてを挙げることはできませんが，心よりお礼申し上げます．

樋口知之新会長を中心に，学会がさらに発展することを願っています．

この２年間，大変ありがとうございました．

３．理事長就任のご挨拶

大森　裕浩（東京大学大学院経済学研究科）

このたび思いがけず，理事長を拝命いたしました．日本統計学会の運営を担う重要な仕事をお任せいただきましたことは大変身に余る光栄であり，感謝を申し上げます．歴代理事長は大変著名で優秀な先生方であることを改めて知り，身の引き締まる思いでおります．中でも初代理事長の鈴木雪夫先生は，私が東京大学経済学部に在学時のゼミの指導教授であり，私が研究者を志す契機を与えてくださった先生です．鈴木先生を含め，理事長として先生方の名を汚さぬよう日本統計学会に貢献をしていきたいと思っております．

これまで日本統計学会においては様々な形で深く活動をさせていただいてきま

した．理事会では日本統計学会誌の編集委員（英文誌・和文誌）や編集委員長（和文誌）を務めたほか，国際関係理事として日本・台湾・韓国の統計関連学会の交流を担当してきました．また日本統計学会の代議員を2011年より務めており，2016年には学会活動特別委員会委員長として，他学会との連携や産業界との連携，国際化の試み，若手研究者・女性研究者の支援などに関する提言を行いました．関連して統計学に関わる国内外の会議開催を行っており，2012年には，日本統計学会の協賛を頂いて国際ベイズ分析学会（International Society of Bayesian Analysis, ISBA）世界大会を京都で事務局長として開催し（組織委員会委員長は和合肇先生），2014年には日本統計学会を含む統計関連学会連合大会（東京大学本郷キャンパス）を実行委員長として開催してきました．さらに2012年には渡部敏明氏と研究業績賞を共同受賞，2018年には日本統計学会賞を受賞させていただいており，日本統計学会は常に研究活動の基盤でありました．今回は理事長となり，日本統計学会に貢献できることを大変うれしく思っております．

現在，日本統計学会誌の英文誌はその発行主体が日本統計学会から統計関連学会連合に移り，JJSD（Japanese Journal of Statistics and Data Science）に発展・統合され，Editor-in-Chief の青嶋誠先生の強いリーダーシップのもと国際学術雑誌としてその地位を確立しつつあります．日本統計学会はその発行を現在もサポートしており，理事会においてはそれを継続して行くことができるよう支援体制を整えていきます．現在は科研費による予算の支援が行われていますが，引き続き財政的な支援を継続できるよう努めてまいります．和文誌は日本統計学会独自の唯一の学術雑誌となりましたが，その重要性は以前よりも増していると考えています．日本語で掲載できる質の高い学術雑誌は多いとは言えず，新編集委員長の栁原宏和先生のご指導のもと，統計学の分野における貴重な研究発表の場としての受け皿を今後も維持していきたく存じております．会員の皆様には奮って投稿や特集企画の応募をお願いいたします．

国際関係では，コロナ禍ということもあり国際会議への派遣や，日本で行われる会議への招待が難しい状況下にあります．これまで上述の三学会の交流や国際ベイズ分析学会世界大会のほか，日本からも参加者の多い CFE（Computational and Financial Econometrics）や EcoSta（Econometrics and Statistics）の Co-chair を務め，日本統計学会の名前の付いたセッションを企画したり，2019年 ISBA Eastern Asia Chapter の東アジア大会を会長として神戸大学にて開催（実行委員長は各務和彦先生）したりしてまいりましたが，これらの経験を通じて国際交流の重要性を強く感じてきました．経験豊富な国際関係理事のもと，コロナ禍終息後には，国際交流にも一層力を入れていきたいと考えています．その他にも統計検定，統計教育，日本統計学会の直面する財源の問題や，寄附金，組織効率化などの問題についても取り組む所存です．

日本統計学会独自の日本統計学会春季集会は，2021年度は慶應義塾大学日吉キャンパス（実行委員長は中妻照雄先生），2022年度は東京都立大学南大沢キャンパス（実行委員長は中山厚穂先生）にて開催を予定しております．コロナ禍終息後の学会としてより多くの皆様のご参加をお待ちしております．

これまでの川崎茂前会長，山下智志前理事長及び前理事会理事の先生方の素晴らしい理事会活動を継続し，これより２年間，会長の樋口知之先生，そして厚く信頼のおける心強い新理事（今回，新しく教育担当理事も加わっていただきました）の先生方と共に，ご一緒に日本統計学会が一段と活気をもって活動できるように運営をして参る所存ですので，よろしくお願い申し上げます．

理事長略歴

大森裕浩（おおもりやすひろ）
1985年　東京大学経済学部卒業
1992年　ウィスコンシン大学マジソン校統計学部 Ph.D. コース修了（Ph.D. in Statistics）
1992年　オハイオ州立大学コロンバス校統計学部

専任講師（Instructor）
1993年　千葉大学法経学部専任講師
1994年　同助教授
1996年　東京都立大学経済学部助教授
2001年　同教授
2001年　東京大学大学院経済学研究科助教授，
2004年　同准教授
2009年　同教授
専門分野：ベイズ統計学，ベイズ計量経済学

４．理事長退任のご挨拶～チームワークで困難に立ち向かうことの素晴らしさ

山下　智志（統計数理研究所）

２年前の統計学会の総会で理事長に選任されたとき，自信のなさから来る戸惑いがありましたが，それ以上に統計学会の理事長だからこそ出会える人たちがいることに嬉しさを感じておりました．統計数理研究所の教授という肩書きでは，なかなか話を聞けない人たちと，直接話し合えることが楽しみと感じていました．いろんな人と会って，その人のとっておきの話を聞いて，自分の記憶の宝物にしたいワクワクとした気持ちがありました．例えば学会の業務に慣れてきた頃にアメリカ統計学会の会長とお会いしました．ただ，その直後からコロナの流行によって，人と人が対面で出会うという機会が激減しました．

コロナ対策と言う重大な課題が学会に降りかかってきて，日々，対策に追われることになりました．一つ一つの意思決定が初体験で，全く自信ないまま，重要な判断をいくつも行うことになりました．その中で，会長や他の理事の方々が，真剣に学会の活動について考えていただき，また苦労を惜しまない責任感のある行動をとっていただいたため，結果として学会の活動を通常以上に続けることができました．このように，通常業務をやり遂げるのに一生懸命の２年間でしたが，いくつかの試みを始めました．

１．元統計学会会長の中村先生のご遺族からの寄付を原資に，中村賞を新設することができました．
２．文部科学大臣に対して，「統計学を教える大学教員が不足しておりその人材育成は日本にとって急務である」という点を提言いたしました．これはその後統計エキスパート人材育成という国プロ事業に繋がりました．
３．統計学会の法人化以降課題になっておりました，統計学会の教育事業について改革を行いました．これまで統計学会の教育委員会は理事会とは独立に活動しており，担当の理事もなければ活動の予算もほとんどない状態でした．規約などを改正し統計教育担当の理事を新設するとともに理事会で教育事業に対する予算を計上することができるようになりました．
４．欧文誌は認知度と評価を順調に高めており Impact Factor を取得する準備段階が進んでおります．
５．和文誌は即時オープンアクセスが可能となり学会の利便性がさらに増しました．
６．春季集会のポスターセッションの審査は代議員全員が審査員として評価するという形に変え，これまで以上に権威のある賞となりました．

このように長年の課題をいくつか解決することができました．しかし，準会員制度については具体的な変革ができず，次の理事会に課題を託すことになりました．

私が理事長を引き受けて本当に良かったと思うことは，多くの方々の献身的な努力に支えられながら，一丸となって困難に立ち向かうことの素晴らしさを，実感させていただいたことに尽きます．まるで少年ジャンプのヒーローのような感動的な経験をさせていただきました．今後，この経験を生かして，統計コミュニティの発展に対して貢献できればうれしいです．

理事の先生方以外にも，統計コミュニティの皆さんにこれまで多方面にわたり支えていただきました．私が２年間理事長としてやってこられたのは皆様のご支援の賜であると思っております．統計学会へのご協力，これからもどうかよろしくお願いいたします．

５．第26回 日本統計学会賞について

川崎　茂（前日本統計学会会長）

2021年度の日本統計学会賞は，以下の方に授与することが決まりました．

受賞者指名：内田　雅之　氏

略歴：1992年　東京理科大学理学部数学科卒業，1994年　大阪大学大学院基礎工学科前期博士課程修了，1995年　文部科学省統計数理研究所統計教育・情報センター助手，1998年博士号取得（理学，大阪大学），2000年　九州大学大学院数理学研究員助教授，2007年　大阪大学大学院基礎工学研究科准教授，2009年　大阪大学大学院基礎工学研究科教授　　現在に至る．

授賞理由：内田雅之氏は，これまで確率微分方程式で定義される拡散過程の統計学研究において多くの優れた成果を挙げている．特に，高頻度時系列データに基づく拡散過程の統計モデリングにおいては独創的な研究を行い，高く評価されている．さらに，最近では高頻度時空間データに基づく確率偏微分方程式の統計的推測についても精力的に研究を進めている．

内田氏のこのような統計学の発展に対する多大な貢献は，日本統計学会賞にふさわしいものである．

主要業績：

［1］Sørensen, M. and Uchida, M.（2003）. Small-diffusion asymptotics for discretely sampled stochastic differential equations. Bernoulli, Volume 9, Number 6, 1051-1069

［2］Uchida, M.（2010）. Contrast-based information criterion for ergodic diffusion processes from discrete observations. Annals of the Institute of Statistical Mathematics, Volume 62, Issue 1, 161-187

［3］Uchida, M. and Yoshida, N.（2012）. Adaptive estimation of an ergodic diffusion process based on sampled data. Stochastic Processes and their Applications, Volume 122, Issue 8, 2885-2924

［4］Kamatani, K. and Uchida, M.（2015）. Hybrid multi-step estimators for stochastic differential equations based on sampled data. Statistical Inference for Stochastic Processes, Volume 18, Issue 2, 177-204

［5］Kaino, Y. and Uchida, M.（2021）. Parametric estimation for a parabolic linear SPDE model based on discrete observations. Journal of Statistical Planning and Inference, Volume 211, 190-220

６．第１回 日本統計学会中村隆英賞について

川崎　茂（前日本統計学会会長）

2021年度の日本統計学会中村隆英賞は，以下の方に授与することが決まりました．

［1］受賞者指名：高山　憲之　氏

略歴：1976年　東京大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学，1976年　武蔵大学経済学部専任講師，1978年　同助教授，1980年　一橋大学経済研究所助教授，1982年　経済学博士（東京大

学），1990年　同教授，2005年　同研究所長，2010年　一橋大学名誉教授，2011年　公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構研究主幹，2018年　同理事長　　現在に至る．

授賞理由：高山憲之氏は，経済統計に関する研究及び実務の両面において優れた業績を挙げている．高山氏の研究は，次の４つの分野に及んでおり，刊行された論文は高く評価されている．第１は，貧困の計測に関する研究であり，新たな指標を考案し，従来とは異なる視点から貧困状況を包括的に捉えることを可能とした．第２は，「全国消費実態調査」等の経済統計マイクロデータを活用した計量分析であり，その結果は政策形成に活用された．第３は，年金を始めとする社会保障に関する研究であり，世代間の利害調整という新たな観点から，あるべき社会保障制度の理論的計量的研究を推進した．第４は，経済統計のパネルデータに基づいた分析であり，自ら構築したパネルデータから就業，離職等に関する新たな知見を得ており，この分野におけるその後の研究に大きな指針を与えた．また，高山氏は，統計審議会，年金審議会等への参画を通じて，これらの成果・知見が国の経済統計整備，社会保障政策等に活用されるよう尽力してきた．

高山氏のこのような経済統計の分析，理論，手法の発展に対する顕著な貢献は，日本統計学会中村隆英賞の受賞にふさわしいものである．

主要業績：

［1］Takayama, N.（1979）“Poverty, Income Inequality, and their Measures: Professor Sen’s Axiomatic Approach Reconsidered” Econometrica, 140, December pp.747-759

［2］高山憲之（1981）「厚生年金における世代間の再配分」『季刊現代経済』pp.14-125

［3］Takayama, N.（1992）The Greying of Japan: An Economic Perspective on Public Pensions, Kinokuniya and Oxford University Press

［4］高山憲之（編著）（1992）『ストック・エコノミー：資産形成と貯蓄・年金の経済分析』東洋経済新報社

［5］有田富美子，高山憲之（1996）「貯蓄と資産形成」日経・経済図書文化賞

［6］高山憲之（2004）『信頼と安心の年金改革』東洋経済新報社

［7］高山憲之（2010）『年金と子ども手当』岩波書店

［8］Takayama, N. et al.（2016）The Japanese Longitudinal Survey on Employment and Fertility（LOSEF）, Rippa

［9］高山憲之（2015）「パネルデータから見た第３号被保険者の実態」『年金研究』第１号，pp.3-31

［10］高山憲之・白石浩介（2020）「60歳定年経験者の定年後における成果と離職：パネルデータ分析」『年金研究』12，pp.1-28

［2］受賞者指名：西村　清彦　氏

略歴：1977年東京大学大学院経済学研究科修士課程修了，1982年　米国イェール大学 Ph.D（経済学博士），1983～1994年　東京大学経済学部助教授，1994～2005年　同大学院研究科教授，2003～2005年　統計審議会委員，2003～2005年　内閣府経済社会総合研究所総括政策研究官，2005～2008年　日本銀行政策委員会審議委員，2008～2013年　日本銀行副総裁，2013年～2017年　東京大学大学院経済学研究科教授，2013～2015年　東京大学大学院経済学研究科長・経済学部長，2014～2019年　統計委員会委員長，2017年　東京大学名誉教授，2018年　政策研究大学院大学特別教授　　現在に至る．

授賞理由：西村清彦氏は，経済統計に関する研究と実務の両面で顕著な業績を挙げている．経済統計の理論・手法の発展，および実証分析に関しては，日本企業の生産性についての分析，財価格の形成メカニズムの解明，不動産価格インデックスの組成など多数の研究成果を論文・著書として刊行している．また，2011年のケインズ『一般理論』出版75周年記念コンファレンスでは，金融危機の裏にある人口動態と信用膨張との連関の重要性をいち早く指摘し，最近に至る人口動態と経済

活動に関する議論の嚆矢となった．さらに，実務面では，政府の統計委員会委員長として，経済統計を含む公的統計の改善に尽力した．委員長在任中には，GDP 統計，景気統計，サービス統計，シェアリングエコノミーなど新分野に関する統計など，時代に適合すべく，公的統計の改革に道筋をつけた．

このような西村氏の研究及び実践活動を通じた経済統計の分析，理論，手法の発展に対する顕著な貢献は，日本統計学会中村隆英賞にふさわしいものである．

主要業績：

［1］西村清彦（1990）『経済学のための最適化理論入門』東京大学出版会

［2］西村清彦（1995）『日本の地価の決まり方』筑摩書房

［3］西村清彦（1996）『「価格革命」のマクロ経済学―流通構造変革の実証分析』日本経済新聞社．（エコノミスト賞受賞）

［4］西村清彦，峰滝和則（2004）『情報技術革新と日本経済』有斐閣

［5］Kiyohiko G. Nishimura, Takanobu Nakajima, Kozo Kiyota（2005）Does Natural Selection Mechanism Still Work in Severe Recessions? Journal of Economic Behavior and Organization, 58（1）53-78

［6］西村清彦，山澤成康，肥後雅博（2020）『統計　危機と改革』

［3］受賞者指名：美添　泰人　氏

略歴：1975年　東京大学大学院経済学研究科博士課程修了，1978年　Harvard University，Graduate School of Arts and Sciences 修了（Ph.D.），1978年　立正大学経済学部 講師，助教授，教授，1992年　青山学院大学経済学部教授，1999－2002年　経済企画庁経済研究所 客員主任研究官，2015年　青山学院大学経営学部プロジェクト教授，2015年　青山学院大学名誉教授，2018年　一般社団法人新情報センター会長　　現在に至る．

授賞理由：美添泰人氏は，多年にわたり，経済統計を中心として統計学の研究と実践の両面において多大な業績を挙げてきた．美添氏は，ベイズ統計学，探索的データ解析，頑健統計学，標本調査理論を始め，幅広い分野に精通し，優れた研究成果を挙げるとともに，その知見を活用して様々な公的統計の整備・改善に尽力した．統計審議会，統計委員会，各府省庁の研究会など国の重要統計に関する検討の場に参画し，その豊富な知識を駆使して物価指数，法人企業統計，景気動向指数など様々な経済統計について指導・助言を行った．2019年に厚生労働省の毎月勤労統計を発端とする公的統計の問題事案が発生した際には，日本統計学会「公的統計に関する臨時委員会」の設置，運営において中心的役割を果たし，同年７月に委員と共同で報告書を取りまとめた．

美添泰人氏のこのような経済統計の研究，実務及び関連する理論，手法の発展に対する多大な貢献は，日本統計学会中村隆英賞にふさわしいものである．

主要業績：

［1］中村隆英，新家健精，豊田敬，美添泰人（1983）『経済統計入門』，東京大学出版会，（第２版1992年）

［2］舟岡史雄，若杉隆平，美添泰人，本郷茂他（1996）『経済社会構造の把握のための企業統計分析手法に関する調査研究』産業研究所

［3］松田芳郎，伴金美，美添泰人（2000）『ミクロ統計の集計解析と技法』日本評論社

［4］美添泰人（2012）「統計制度改革の意義と今後の課題」『日本統計学会誌』41（2）pp.337-340

［5］舟岡史雄，椿広計，美添泰人他（2019）『公的統計に関する臨時委員会報告書』，日本統計学会

主な活動：

1994年～現在　経済企画庁景気基準日付検討委員会委員（現在，内閣府景気動向指数研究会）

1996～2007年　統計審議会委員（2005～2007年同会長）

2007～2009年　統計委員会委員

1994～1996年　日本統計学会理事長　　2009～2011年　日本統計学会会長

7．第17回 日本統計学会統計活動賞について

川崎　茂（前日本統計学会会長）

2021年度の日本統計学会統計活動賞は，以下の方に授与することが決まりました．

[1] 受賞者指名・活動：竹内　光悦　氏
学校教員の統計指導力向上に向けた統計教育の基盤充実に向けた活動
略歴：1996年　鹿児島大学理学部数学科卒業，2001年　鹿児島大学大学院理工学研究科博士課程修了，博士（理学），2001年　立教大学社会学部助手，2004年　実践女子大学人間社会学部専任講師，2008年　同准教授，2017年　同教授　　現在に至る．
授賞理由：竹内光悦氏は，初等中等教育から高等教育につなぐ統計教育の基盤の充実と向上に向け，教育・普及活動に長期にわたり尽力してきた．高等学校教員等を対象とした「統計教育の方法論ワークショップ」では，2004年の開始以来，中心的役割を務め，教員相互の発表と討論の場を通じて教員の統計教育能力の向上に貢献してきた．また，統計関連学会における統計教育セッションの企画・実施，スポーツデータ解析コンペティションの開催運営，ISI の国際統計リテラシープロジェクト（ISLP）への日本からの参加支援，政府・自治体等の教員研修における講演・指導，教科書編集活動等，幅広い活動を通じて統計教育の発展に貢献している．さらに，ISI による統計用語集の各国言語対応検索システム，統計書籍の電子図書システムの構築など，統計・データサイエンス授業の支援のためのプラットフォームの開発を通じて多大な貢献を行ってきた．

竹内氏によるこのような活動は，統計教育の水準向上及び統計学・データサイエンスの普及・発展に顕著な貢献をするものであり，日本統計学会統計活動賞にふさわしいものである．

主要業績：
[1] 竹内光悦（2020）「社会調査・分析を中心とした女性データサイエンス教育の展開」『日本ソーシャルデータサイエンス学会論文誌』4 (1), 13-18
[2] 竹内光悦（2020）「これからの数学教師に求められる13の新教養「統計的な問題解決」」『数学教育』（747）74-79
[3] 竹内光悦（2017）「グループワークを主とする実習および今後の学びに関する意識調査」『実践女子大学人間社会学部紀要』13，187-195
主な活動：
[1] 統計教育の方法論ワークショップ（2005～2021年，継続中）
[2] 統計関連学会連合大会企画セッション（スポーツ統計，大学教育の質改革，データサイエンス人材育成基盤整備等）（2013～2020年）
[3] スポーツデータ解析コンペティション中等教育部門（2013～2020年）
[4] ISI 多言語統計用語サイト（https://estat.sci.kagoshima-u.ac.jp/dic/）

[2] 受賞者指名・活動：西浦　博　氏
統計モデルを用いた感染症伝播の先駆的研究と社会実装及びその普及活動
略歴：2002年　宮崎医科大学医学部卒業，2006年広島大学大学院保健学研究科博士課程修了　博士（保健学），2013年　東京大学大学院医学系研究科国際社会医学講座 准教授，2016年　北海道大学大学院医学研究院社会医学分野衛生学教室　教授，2020年　京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻 教授　　現在に至る．
授賞理由：西浦博氏は，疫学・予防医学，健康・医療情報学，社会システム工学・安全システム等

を専門分野とし，長年にわたり感染症流行の統計数理モデル等に関する先駆的な研究を行っている．研究内容は，感染症流行のダイナミクスの解明，流行の予測，防疫対策の評価分析など多岐に及んでいる．日本及び外国における感染症拡大の実態の分析など，数多くの優れた論文を発表するとともに，専門家あるいは一般人を対象とするセミナー等を通じて研究成果の普及に努め，数理モデルの意義及び有用性に対する理解を広めてきた．昨年のコロナ禍の発生以来，このようなモデルに基づき，感染症対策に関する知見を社会に発信し，防疫対策に関する社会的理解の増進に貢献した．

西浦氏のこのような活動は，統計学の応用による社会的実装を通じて，その意義・役割に関する社会的認識を高めることに顕著な貢献をするものであり，日本統計学会統計活動賞にふさわしいものである．

主要業績：

［1］Nishiura, H. et al,（2020）. Early SNS-Based Monitoring System for the COVID-19 Outbreak in Japan: A Population-Level Observational Study, JOURNAL OF EPIDEMIOLOGY 30（8）362-370

［2］Nishiura, H. et al.（2020）Age specificity of cases and attack rate of novel coronavirus disease（COVID-19）, https://doi.org/10.1101/ 2020.03.09. 20033142

［3］Nishiura, H. et al.（2020）Ascertainment rate of novel coronavirus disease（COVID-19）in Japan, INTERNATIONAL JOURNAL OF INFECTIOUS DISEASES, Vol. 96, pp.673-675

［4］Nishiura, H. et al.（2019）Analyzing and forecasting the Ebola incidence in North Kivu, the Democratic Republic of the Congo from 2018-19 in real time, EPIDEMICS 27 pp.123-131

［5］Nishiura, H. et al（2019）Estimate of the annual risk of tuberculosis infection in a general population of Japan, JOURNAL OF THEORETICAL BIOLOGY 472 1-3

8．第17回 日本統計学会統計教育賞について

川崎　茂（前日本統計学会会長）

2021年度の日本統計学会統計教育賞については，以下の方に授与することが決まりました．

［1］受賞者指名：林　宏樹　氏

略歴：2003年　兵庫県立但馬農業高等学校教諭，2007年　兵庫県立加古川北高等学校教諭，2015年　兵庫県立姫路西高等学校教諭　　現在に至る．

授賞理由：林宏樹氏は，高等学校数学科・情報科における統計教育・データサイエンス教育において効果的な授業方法の研究・実践を行い，その成果を学会等において積極的に発表している．2020年には，学校教員の会員を募り「高等学校データサイエンス教育研究会」を設立し，データサイエンス教育の研究会の開催，教育プログラム開発と共有を進めており，これを通じて，会員である教員自らの授業力の向上に努めるとともに，この分野の知識の普及に努めている．また，所属校においては，スーパーサイエンスハイスクールの指定に貢献するとともに，数学，情報，総合的な探究の時間におけるデータサイエンスを基盤としたカリキュラムマネジメントによる科学的探究活動を指導した．その成果は，文部科学省からも評価されるなど，全国の高校における授業モデルとなっている．

このような林氏の統計教育・データサイエンス教育に対する顕著な貢献は，日本統計学会統計教育賞にふさわしいものである．

［2］受賞団体名：Women in Data Science を通じたデータサイエンスの普及啓発・人材育成活動（代表（WiDS アンバサダー）：小野　陽子氏，菅　由紀子氏，西戸　京子氏）

授賞理由：Women in Data Science（WiDS）は，2015年に米国スタンフォード大学を中心として始められた世界的な活動であり，データサイエンス分野で活躍する女性が中心となって，データサイエンスの意義，面白さを広く伝え，性別に関係なくデータサイエンス分野で活躍する人材を育成することを目的としている．

日本では，小野陽子氏，菅由紀子氏，西戸京子氏らが中心となって，2018年から WiDS の活動を開始し，現在までに，東京，広島においてシンポジウム等を開催している．これらの活動は，①従来の縦割り領域を横断し，ジェンダー問題に限らず，社会全般にイノベーションをもたらす産学官のプラットフォームとしての機能を果たしている，② SDGs（持続可能な開発目標）とデータサイエンスを融合させ，包摂性を取り入れた活動として多くの人材をデータサイエンス分野にいざなう取組である，③ワークショップ，ハンズオン，アイデアソン等の方法を通じてデータからストーリーを語ることに重点を置いている　などの優れた特徴を有している．

同氏らを中心として進められているこの活動は，統計学及びデータサイエンスの幅広い普及・啓発に大きく貢献する意義深いものであることから，日本統計学会統計教育賞にふさわしいものである．

９．第15回 日本統計学会研究業績賞について

川崎　茂（前日本統計学会会長）

2021年度の日本統計学会研究業績賞は，以下の方に授与することが決まりました．

受賞者指名：二宮　嘉行　氏

略歴：2001年　総合研究大学院大学数物科学研究科修了　博士（学術） 2001年　九州大学大学院数理科学研究院助手，2007年　同准教授，2011年　九州大学マス・フォア・インダストリ研究所准教授，2018年　統計数理研究所数理・推論研究系教授　　現在に至る．

授賞理由：二宮嘉行氏は，モデル選択理論，因果推論及びスパース推定の分野を中心として優れた業績を挙げている．二宮氏の論文で対象とされている因果推論，スパース推定，変化点解析においては，これまで情報量規準が十分に開発されていなかったが，同論文では，因果推論に関して唯一の妥当な基準を与えている．その結果は C_p 規準の形で与えられているが，ロジスティック回帰や構造方程式モデリングなどの枠組みにも対処できるよう，AIC 型の情報量規準に拡張することも可能な枠組みとなっている．また，スパース推定に関しては，恣意性を有さない，数理的妥当性をもつ基準を与えており，これにより実装が容易なものとなっている．さらに，変化点解析では，一時的な分布に従う変化点モデルに対して初めて AIC が導かれている．

二宮氏の対象論文に代表されるこれまでの統計学の発展への顕著な貢献は，日本統計学会研究業績賞としてふさわしいものである．

主要業績：

［1］Yoshiyuki Ninomiya, Satoshi Kuriki, Toshihiko Shiroishi, Toyoyuki Takada（2021）. A modification of MaxT procedure using spurious correlations, Journal of Statistical Planning and Inference, Volume 214, September 2021, Pages 128-138

［2］Satoshi Komatsu, Yuta Yamashita, Yoshiyuki Ninomiya（2019）. AIC for the group Lasso in generalized linear models, Japanese Journal of Statistics and Data Science 2（2）545-558

［3］Yuta Umezu, Yusuke Shimizu, Hiroki Masuda, Yoshiyuki Ninomiya（2019）. AIC for the non-concave penalized likelihood method, Annals of the Institute of Statistical Mathematics 71（2）247-274

［4］Takamichi Baba, Takayuki Kanemori, Yoshiyuki Ninomiya（2017）. A C_p criterion for semiparametric causal inference, Biometrika 104（4）845-861
［5］Yoshiyuki Ninomiya, Shuichi Kawano（2016）AIC for the Lasso in generalized linear models, Electronic Journal of Statistics 10（2）2537-2560
［6］Yoshiyuki Ninomiya（2015）. Change-point model selection via AIC, Annals of the Institute of Statistical Mathematics 67（5）943-961

10. 第35回 小川研究奨励賞について

川崎　茂（前日本統計学会会長）

2021年度の小川研究奨励賞は，以下の方に授与することが決まりました．

［1］受賞者指名：今泉　允聡　氏
略歴：2011年　東京大学文学部卒業，2017年　東京大学大学院経済学研究科博士課程修了（学位取得），2015年　日本学術振興会特別研究員（DC2），2017年　日本学術振興会特別研究員（PD），2018年　統計数理研究所助教，2020年　東京大学先進科学研究機構　准教授　　現在に至る．
受賞論文：
［1］今泉允聡（2021）深層学習の原理解析：汎化誤差の側面から，日本統計学会誌，Vol.50, 257-283
［2］R. Nakada, M. lmaizumi（2020）, Adaptive Approximation and Generalization of Deep Neural Network with Intrinsic Dimensionality, Journal of Machine Learning Research 21（1-38）
［3］M.Imaizumi, K. Fukumizu（2019）. Deep Neural Networks Learn Non-Smooth Functions Effectively. PMLR: Artificial Intelligence and Statistics
［4］M.lmaizumi, T. Maehara, Y. Yoshida（2018）. Statistically Efficient Estimation for Non-Smooth Probability Densities. PMLR: Artificial Intelligence and Statistics（Best Paper Award）
受賞論文の評価：今泉允聡氏は，深層学習における研究成果を機械学習のトップジャーナルに発表している．

授賞対象として挙げた４編の論文のうち１番目のものでは，深層学習に関して，汎化誤差の観点からの原理解析の成果をとりまとめ，概観している．２番目のものでは，共変量の内在的低次元性が深層学習のパフォーマンスの主たるファクターであることを示している．３番目のものでは，非滑らかな関数を目的としたときの統計的性質を検討し，深層学習が他の手法よりもいくつかの場合には優れている理由を論じている．４番目のものでは，非滑らかな密度関数を目的とした場合の推定量の統計的性質を検討している．

これらの論文は，近年急速に発展している深層学習の分野において重要な貢献をするものであることから，日本統計学会小川研究奨励賞にふさわしいものである．

［2］受賞者指名：菅澤　翔之助　氏
略歴：2013年　慶應義塾大学理工学部数理科学科卒業，2015年　東京大学大学院経済学研究科経済専攻統計学コース修士課程修了，2015年　日本学術振興会特別研究員（DC），同年　統計数理研究所リスク解析戦略研究センター特任研究員，2018年　東京大学空間情報科学研究センター講師，2021年　東京大学空間情報科学研究センター准教授　　現在に至る．
2018年　博士（経済学）（東京大学）
受賞論文：
Sugasawa, Shonosuke（2020）Grouped Heterogeneous Mixture Modeling for Clustered Data, Journal of the American Statistical Association, DOI: 10.1080/01621459.2020.1777136
受賞論文の評価：菅澤翔之助氏は，これまで変量

効果のある回帰モデルを拡張した潜在混合モデルの一般化を行ってきた．

本論文では，高速なモンテカルロ法によるEMアルゴリズムによる推定方法を開発し，その推定量の漸近的性質やチューニングパラメータの選択に関する理論的な性質を明らかにしている．提案された手法は東京23区の犯罪リスク要因分析に適用され，既存の推定方法では特定できなかった異質性の構造が明らかにされている．本論文で提案されているモデルは一般性が高く，従来の潜在混合モデルよりも結果の解釈が容易となるという特徴があり，今後，応用範囲も広くなることが期待される．

このように，本論文はこの分野において重要な貢献をしていることから，日本統計学会小川研究奨励賞にふさわしいものである．

[3] 受賞者指名：劉　言　氏

略歴：2011年　早稲田大学基幹理工学部卒業単位取得退学，同年　早稲田大学基幹理工学研究科飛び級入学，2014年　日本学術振興会特別研究員（DC2），2015年　早稲田大学基幹理工学研究科博士課程修了　博士（理学），2016年　早稲田大学基幹理工学部助手，2017年　同助教，同年　京都大学大学院情報学研究科助教，2018年理化学研究所革新知能統合研究センター客員研究員，2019年　早稲田大学数理科学研究所研究員講師　　現在に至る．

受賞論文：Liu, Yan, Akashi, Fumiya, Taniguchi, Masanobu（2018）Empirical Likelihood and Quantile Methods for Time Series: Efficiency, Robustness, Optimality, and Prediction. JSS Research Series in Statistics, Springer

受賞論文の評価：劉言氏は，多次元時系列の重要指標を経験尤度で推測する理論を構築したほか，高次元時系列における Sphericity 検定論を展開するなど，時系列解析を中心に単著・共著の論文を出版している．

本書に掲載の論文は，時系列データに対する経験尤度法及び分位点に基づく解析手法を理論的視点から詳説している．ここでは，二次モーメントさえ持たない安定過程を含む一般的な定常過程を出発点として，その予測問題，補間問題及び外挿問題を論じ，頑健性のある構成法を提案している．それに基づき，新たな乖離度指標を導入し，母数推測論を一般的な定常過程に対して展開している．さらに，モデルの重要指標に対する検定問題を，予測問題に関連する周波数領域を切り口として論述し，経験尤度法を変化点問題に応用して理論を構築している．

本書の論文で論じられている理論及び手法は，広範なモデルに対して適用可能であり，この分野において顕著な貢献をしていることから，日本統計学会小川研究奨励賞にふさわしいものである．

11. 第３回細谷賞授賞について

照井　伸彦（東北大学大学院経済学研究科）

東北大学大学院経済学研究科では，細谷雄三名誉教授の統計学界における教育・研究への貢献を記念して，広く人文・社会科学分野における若手研究者のデータ科学研究を奨励するため，2018年に細谷賞を創設しました．2021年３月31日を期日に第３回受賞候補者の公募を行い，学外者を含む選考委員会を設け，慎重な審査・選考を行いました．ここに選考結果を報告します．なお，本賞は東北大学須永特定基金より寄付を受け日本統計学会の後援により実施しています．

第３回受賞者

１．今泉允聡（東京大学大学院総合文化研究科）
Imaizumi, M. and Fukumizu, K.（2019）. Deep Neural Networks Learn Non-Smooth Functions Effectively. Artificial Intelligence and Statistics（PMLR 89）

２．茂木快治（神戸大学大学院経済学研究科）
Hamori, S., Motegi, K. and Zhang, Z.（2020）. Copula-based regression models with data missing at random. Journal of Multivariate Analysis, 180

講評

今泉氏および茂木氏による論文は，それぞれ機械学習，計量経済学応における理論と応用をテーマとして，優れた成果をあげている．

今泉氏は，deep neural networks による滑らかでない関数への近似問題を理論的に分析している．Deep neural networks は他の機械学習における方法を上回る良い方法であることは経験的に知られている．今泉氏は，区分滑らかな関数に対して，最小二乗法，Bayes 法による推定量の誤差レートと推定のミニマックスレートを評価することにより，deep neural networks の良さを理論的に正当化することに成功した．極めて複雑な高次元問題に対して，洗練された高度な数学を用い，明快な結論を導いた本論文は細谷賞にふさわしいものである．

茂木氏は，欠損がある回帰モデルに対して，コピュラに基づく推測方法を提案している．コピュラをセミパラメトリックにモデル化し，カリブレーションを使って回帰平面を推定している．推定量の漸近理論も導出され，実データへの実証研究も示されている．欠損値という応用上重要かつ困難な問題に対する貢献は受賞にふさわしい成果である．

細谷賞選考委員会

照井伸彦（委員長，東北大学）
大屋幸輔（大阪大学）
新谷元嗣（東京大学）
松田安昌（東北大学）
Peter M. Robinson（London School of Economics and Political Science）
山形孝志（University of York, 大阪大学）

今泉允聡氏略歴

2011/03, 東京大学文学部卒業，2017/03, 博士（経済学 , 東京大学大学院経済学研究科），2020/04, 東京大学大学院総合文化研究科准教授

茂木快治氏略歴

2008/03, 早稲田大学政治経済学部卒業，2014/05, PhD in Economics（Dept. Economics, The University of North Carolina at Chapel Hill），2020/04, 神戸大学大学院経済学研究科准教授

2021年11月に第３回授賞式および Hosoya Prize Lecture を開催する予定です．詳細は下記 webpage をご確認ください．
東北大学大学院経済学研究科サービス・データ科学研究センター
http://www2.econ.tohoku.ac.jp/~DSSR/hosoya.html

12. 2021年度統計関連学会連合大会のお知らせ（第三報）

運営委員長　久保田貴文（多摩大学）
実行委員長　西井　龍映（長崎大学）
プログラム委員長　坂本　亘　（岡山大学）

2021年度統計関連学会連合大会について，現時点での進捗状況をご報告いたします．今大会は応用統計学会，日本計算機統計学会，日本計量生物学会，日本行動計量学会，日本統計学会，日本分類学会の６学会主催，により開催されます．初日の９月５日（日）はチュートリアルセッションと市民講演会をどちらもオンラインにより開催いたします．また，２日目以降（９月６日（月）～

９日（木））は一般講演や企画セッションなどを，現地および遠隔によるハイブリッド方式で開催する予定でしたが，現在の新型コロナ感染拡大（以降，コロナ禍）に伴い，「完全オンライン開催」に変更になりました．今後，コロナ禍の状況が好転した場合にも，再度開催方式が変更になることはありません．また，オンライン開催ですので飲食をともなう懇親会の開催や開催校に設置するような託児所の開所はしませんので，どうぞご承知おきください．

この第三報では，チュートリアルセッション，市民講演会，企画セッション，コンペティションセッションなどの概要を項目ごとにご紹介いたします．今後，連合大会のウェブページ
http://www.jfssa.jp/taikai/2021/
に関連情報や詳細情報を随時掲載していきますので，ご覧ください．

１．オンライン開催に伴う変更事項のご案内

開催方式はオンライン開催に変更になりましたが，講演申込の期間については昨年度と同様の５月10日（月）から受付を開始しました．講演申込の詳細につきましては上記連合大会のウェブページをご確認ください．講演申込は Confit という Web システムを使いますので，上記連合大会ウェブページから行ってください．（講演申込は６月２日（水）17：00厳守，となります．）

なお，オンライン開催となりましたので，それに伴い既に申込いただいている企画セッションのオーガナイザーには変更の旨を個別に連絡しました．また，協賛の申込をいただいている各社・各団体におかれましても，協賛内容に一部変更があることを個別に連絡しましたので，ご確認ください．

２．大会日程，開催場所，各種受付期間

大会日程	９月５日（日）：チュートリアルセッションと市民講演会 ９月６日（月）～９日（木）：本大会
開催場所	すべての日程・セッションはオンライン開催となります
主催	応用統計学会，日本計算機統計学会，日本計量生物学会，日本行動計量学会，日本統計学会，日本分類学会
講演申込	５月10日（月）11：00～６月２日（水）17：00厳守
報告集原稿提出	６月７日（月）11：00～６月25日（金）17：00厳守
事前参加申込（割引料金）	６月７日（月）11：00～８月23日（月）17：00厳守
通常参加申込（通常料金）	８月23日（月）17：00～当日

※参加申込もオンラインのみとなります．

３．講演の申込

講演には次の種類があります．

・一般講演
・企画セッション講演
・コンペティション講演

申込方法は，すべての講演に共通の事項と種類ごとに異なる事項があります．ご注意ください．

(1) すべての講演に共通の事項

講演をご希望の方は，上記ウェブページからお申し込みください．これ以外の申込方法はありません．申込ページでは，「一般講演」，「企画セッション講演」，「コンペティション講演」のいずれかを選択してください．原則として，申込は講演者が行ってください．ただし，「企画セッション講演」に限り，オーガナイザーが講演者に代わって申し込むことも可能です．

(2)「一般講演」に関わる事項

通常の講演は「一般講演」として講演者がお申し込みください．ウェブページ上の講演申込手順

にしたがって申込をしてください．プログラム編成の際の参考にしますので，関連分野を第一希望から第三希望までご選択ください．また，講演者（連名講演者を含む）のうち，少なくとも１名は主催６学会のいずれかの会員であることが要件です．なお，参加方式については，オンラインセッションのみとなります．

(3)「企画セッション講演」に関わる事項

企画セッション講演者は，オーガナイザーから連絡を受けた整理番号に対応するセッションを申込ページの整理番号欄にて選択してください．例えば，整理番号が12であると連絡を受けた講演者は，「企画セッション講演 12」を選択してください．なお，企画セッション講演者（連名講演者を含む）については，主催６学会いずれかの会員であることを要件としません．

オーガナイザーが代理で申し込む場合は，それぞれの講演の申込を１件ずつお願いいたします．

(4)「コンペティション講演」に関わる事項

コンペティション講演は，研究内容とプレゼンテーションの能力を競う企画です．参加資格は，次のいずれかの条件を満たす方です．

(a) 2021年４月１日時点で30歳未満の若手研究者（博士後期課程院生を含む）

(b) 講演時に学部学生や修士課程（または博士前期課程）院生（年齢は問いません）

上記（2）と同様に，関連分野を第一希望から第三希望までご選択ください．

連名講演の場合，コンペティション対象者は実際に口頭発表する方です．また，コンペティション対象者は，講演申込時に主催６学会のいずれかの会員でなければなりません．ただし，入会申請中の方も認めます．プログラム委員会から各学会事務局に会員照会し，会員（入会申請中）でないことが判明した場合は，コンペティションへのエントリーを取り消しますので，十分にご注意ください．

審査は，複数名の審査委員による５段階評価にもとづく投票で実施する予定です．選考はプログラム委員会で行います．審査では，研究内容とともに，研究発表のプレゼンテーションについても評価します．発表者が十分に準備・工夫し，充実したプレゼンテーションであることを期待しています．原則として，最優秀報告者１名，優秀報告者数名程度を選考します．

コンペティションセッションは，９月６日（月）～８日（水）（予定）に開催し，９月９日（木）に表彰式を行う予定です．なお，コンペティション応募総数は年々増加傾向にあり，プログラムを組むのが難しくなっています．したがって，今年度も申込順で受け付け，応募状況によってはコンペティション参加件数を制限することがあります．

(5) 講演言語の選択欄

講演申込のページの講演言語欄では，「日本語」，「英語」「日本語または英語のどちらでもよい」のいずれかを選択してください．

４．講演報告集用原稿の提出

(1)「一般セッション講演」，「コンペティション講演」に関わる事項

報告集用の原稿は A4サイズで１ページです．インターネット経由で電子ファイル（PDF 形式）を提出していただきます．「２．大会日程，開催場所，各種受付期間」を参照の上，原稿提出期間を厳守してください．

(2)「企画セッション講演」に関わる事項

原則として，講演者が提出してください．書式・提出期間等は，上記（1）と同じです．オーガナイザーが代理で提出する場合は，セッション内の各講演について，上記（1）と同様にして１件ずつ原稿を提出してください（「２．講演の申込（3)「企画セッション講演」に関わる事項」も参照）．その場合，オーガナイザーは，期限内に原稿を提出できるようなスケジュールで講演者に原稿作成・提出を依頼してください．

(3) すべての講演に共通の事項

講演種別にかかわらず，ご希望の方は，報告集用原稿とは別に，ウェブページに掲載する詳細論文を受け付けます（A4サイズ，最大10ページまで，PDF 形式，ファイルサイズは1MB 以内，フォント埋め込み）．詳細論文ファイルを上記（1）と同じタイミングで提出していただきます．報告集用原稿および詳細論文の執筆要領については，連合大会ウェブページ（http://www.jfssa.jp/taikai/2021/）をご覧ください．

(4) その他

講演報告集は大会当日までに郵送にてお届けする予定です．

【注意】

講演報告集は，本大会ウェブページにて公開予定です．公開を希望しない場合には，報告集用原稿の提出時に，その旨をご指示ください．

5．企画セッションのご案内

学会や個人等から申請のあった22件の企画セッションが予定されています．整理番号，テーマ名，オーガナイザーの氏名・所属は以下の通りです．各テーマのねらいや講演者・講演タイトルなどについては，後日連合大会のウェブページに掲載される情報をご参照ください．

なお，企画セッションの運営はオーガナイザーに一任していますので，テーマについてのお問い合わせは，各オーガナイザーにお願いいたします．企画セッションの日程はプログラム作成時に決定いたします．

（整理番号），テーマ名（セッション名），オーガナイザー（敬称略）

(01) 若手向けセッション：研究者への道Ⅱ（藤澤洋徳（統数研），川野秀一（電気通信大））
(02) デモンストレーションセッション（久保田貴文（多摩大））
(03) 日本計量生物学会シンポジウム「リアルワールドエビデンスを指向した反事実因果アプローチの実践と課題」（篠崎智大（東京理科大））
(04) 日本統計学会会長講演，各賞授賞式および受賞者記念講演（1）（山下智志（統数研））
(05) 日本統計学会会長講演，各賞授賞式および受賞者記念講演（2）（山下智志（統数研））
(06) 日本計算機統計学会企画セッション『高次元データおよび高次元時系列データにおける統計的推測』（兵頭昌（神奈川大），川野秀一（電気通信大））
(07) 応用統計学会学会賞受賞者講演（姫野哲人（滋賀大），南美穂子（慶應義塾大））
(08) 確率微分方程式モデリングのための統計ソフトウェア開発プロジェクト YUIMA における最近の成果の紹介（小池祐太（東京大））
(09) 設計と製造のデータ科学：産学の最前線（吉田亮（統数研），藤澤洋徳（統数研））
(10) 日本計量生物学会奨励賞受賞者講演（安藤友紀（医薬品医療機器総合機構），五所正彦（筑波大），田栗正隆（横浜市立大），長谷川貴大（塩野義製薬））
(11) 地震ビッグデータ解析の最前線（長尾大道（東京大），加藤愛太郎（東京大），矢野恵佑（統数研））
(12) 生存時間解析のモデル・手法（江村剛志（久留米大））
(13) コピュラ研究の展開（吉羽要直（東京都立大））
(14) 確率過程の統計学における最新の展開（荻原哲平（東京大））
(15) 新学習指導要領と高大連携データサイエンス教育の展開（竹内光悦（統計教育委員長・実践女子大），藤井良宜（統計教育分科会主査・宮崎大），渡辺美智子（立正大））
(16) IASC-ARS International Session 1 - Recent advances and new trends in computational statistics -（森裕一（岡山理科大））
(17) IASC-ARS International Session 2 - Recent advances and new trends in computational

statistics -（森裕一（岡山理科大））
(18) 人文学・社会科学分野におけるデータインフラストラクチャー構築推進事業の展開（廣松毅（日本学術振興会），前田幸男（日本学術振興会），伊藤伸介（日本学術振興会））
(19) 大規模データを対象にした匿名加工とプライバシー保護の動向（佐井至道（岡山商科大），星野伸明（金沢大），伊藤伸介（中央大））
(20) 公的統計ミクロデータにおけるさらなる利活用をめぐって（南和宏（統数研），伊藤伸介（中央大））
(21) 応用統計学会の企画セッション：統計的因果効果推定の近年の進展：異質性を中心に（星野崇宏（慶應義塾大・理化学研究所））
(22) 統計数理研究所医療健康データ科学研究センター「医療統計学のフロンティア」（松井茂之（名古屋大・統数研），伊藤陽一（北海道大），田栗正隆（横浜市立大））

6．プレナリーセッション，チュートリアルセッション，市民講演会について

・プレナリーセッション “JJSD session supported by JSPS Kakenhi”

日　時：2021年９月６日（月）午前【オンライン講演】

オーガナイザー・座長：松田安昌（東北大学大学院経済学研究科）

講演者：Prof. Sudipto Banerjee（Department of Biostatistics, UCLA School of Public Health）

題　名：Bayesian modeling and inference for high-dimensional spatial-temporal data

日本統計学会では科学研究費補助金：国際情報発信強化（B）「日本統計学会欧文誌から国際的新雑誌への発展を計る取組」による補助を受け，２年に１回の頻度で統計関連学会連合大会プレナリーセッションを企画しています．本セッションは，本計画に基づき，Prof. Sudipto Banerjee（Department of Biostatistics, UCLA School of Public Health）を招へいし，プレナリー講演：Bayesian modeling and inference for high-dimensional spatial-temporal data を企画します．COVID-19入国制限のためオンライン講演の予定です．講演は英語で行われます．２名の討論者（菅澤翔之助（東京大学），村上大輔（統計数理研究所））を予定しています．

・チュートリアルセッション

今回のチュートリアルセッションでは，「データ分析のためのデータ可視化入門」（キーラン・ヒーリー原著，講談社）の出版に因み，同書の訳者の方々にご講演いただけることになりました．

日　時：2021年９月５日（日）13：00～16：00（休憩時間を含む）【オンライン講演】

テーマ：R によるデータ解析のためのデータ可視化

オーガナイザー：坂本　亘（岡山大学）

講　師：三村喬生氏（量子科学技術研究開発機構放射線医学総合研究所）
江口哲史氏（千葉大学 予防医学センター）
瓜生真也（国立環境研究所 生物多様性領域）

概　要：「21世紀はデータの時代」とも言われ，私たちがごく普通の日常生活を送っているだけで膨大な数値データが生み出され，それはどこかで誰かの手によって解析されています．

データ解析において，対象となるデータの構造を概観するため，解析途中のステップを記録するため，あるいは結果として何が得られたのかを伝えるためといった様々な目的でデータ可視化が用いられます．本講演は，演者３名の共訳による『実践 Data Science シリーズ データ解析のためのデータ可視化入門』（講談社）を元に，R の tidyverse パッケージや ggplot2パッケージを使ったデータ可視化の方法論を作図事例とともにまとめました．具体的には，複数の水準で分割したパネルを並べた図や，統計モデルの出力結果，地理データの描画など紹介します．これらの作図を通じて，手元の数値情報から効率よく目的の図を作りだす技術や，必要に応じて柔軟に図を修正す

る技術についてまとまって知識を得られると思います．

一方でデータ可視化は強力なツールですが，落とし穴があります．望んでいた傾向を美しく表す図であったとしても，データの特定の側面を良いところ取りに強調していたり，解析者の意図に合わせるような強引な表現になっていたりしないでしょうか．特に，自分で作った図に自分が騙されてしまわないように注意する必要があります．従って，図がどう読み取られるかを理解した上でグラフ表現（系列・色・形・グラフの種類など）を選択する力を身につける必要があります．これは「良いグラフ」を作るためにも重要な技術です．本講演ではこの点についても時間を割いて概観します．

・市民講演会

今回の市民講演会では，新型コロナウイルス感染症の流行が続いているという状況を踏まえ，開催校の長崎大学から，呼吸器内科，感染症がご専門の山本和子先生にご登壇いただけることになりました．

日　時：2021年 9 月 5 日（日）16：30～18：00
【オンライン講演】
タイトル：新型コロナウイルス感染症の特徴と実臨床
講演者：山本和子氏（長崎大学病院）

7．参加申込と大会参加費

オンライン開催となりましたので，参加登録については大会ウェブページからの申込のみとなります．円滑な大会の運営のためにも，また参加費割引のためにも，事前参加申申込をご利用ください．受付期間は，「2．大会日程，開催場所，各種受付期間」を参照してください．事前参加申込の場合，参加費が大幅に割引になりますのでぜひご利用ください．

大会参加費（報告集代を含む）

	事前参加申込	通常参加申込
会員（主催6学会の会員）	7,000円	10,000円
学生（会員・非会員を問わず）	3,000円	8,000円
学生以外の非会員	15,000円	20,000円

チュートリアルセッション参加費（資料代を含む）

	事前参加申込	通常参加申込
会員（主催6学会の会員）	3,000円	4,000円
学生（会員・非会員を問わず）	2,000円	3,000円
学生以外の非会員	6,000円	8,000円

【注意】

(1) 講演申込をされた方も参加申込の手続きが必要です．
(2) 現地では（対面セッションは）開催されません．オンライン参加の申込のみとなります．
(3) これまでの大会と同様に，事前申込のキャンセルと変更は認められません．大会に参加されなかった場合，報告集などの資料送付のみとなります．
(4) 主催6学会の会員以外の方が，企画セッションや特別セッションでオーガナイザーから依頼されて講演される場合，大会参加費は無料となります．
(5) 市民講演会は無料です．
(6) 報告集およびチュートリアルセッション資料の（追加）購入は，参加登録のページからお申し込みください．
(7) 昨年度と同様に，参加の方法の「オンライン開催について」の注意事項は連合大会のウェブページにてご案内いたします．また，発表者の方には，チュートリアル・市民講演会の開催日（9月5日（日），予定）にテスト会場を準備する予定となっておりますので，ご利用ください．

13. 2021・2022年度会長選挙開票報告

2021・2022年度選挙管理委員
明石　郁哉（東京大学）・田上　悠太（早稲田大学）

本学会会長選挙規程第６条による2021・2022年度会長候補者に対する選挙が行われ，2021年４月26日（月），統計情報研究開発センターにおいて，選挙管理委員２名（明石郁哉，田上悠太）により開票した結果，樋口知之氏が被選会長として当選しました．

有権者数1,335名中，投票数391，うち有効票数387で，内訳は，賛378，否９，無効票数４でした．

14. 理事会・委員会報告（2021年５月８日開催）

日時：2021年５月８日（土曜日）
午後１時00分～午後３時37分
場所：統計数理研究所 D508
ハイブリッド出席型バーチャル理事会として実施
Zoom（ミーティング ID：859 8377 5842）

理事の総数	13名	出席理事の数	13名
監事の総数	3名	出席監事の数	3名

出席者：
理事：川崎茂会長，山下智志理事長，加藤昇吾（庶務），伊藤伸介（庶務），吉田靖（会計），青嶋誠（JJSD），吉羽要直（会誌編集和文），小池祐太（広報），稲葉由之（大会・企画・行事），松田安昌（国際），菅澤翔之助（国際），前田忠彦（渉外），瀬尾隆（渉外），（以上13名，括弧内は役割分担）
監事：赤平昌文，岩崎学，中西寛子

第１議案　2020年度事業報告について
山下理事長より，資料に基づき，2020年度事業報告がなされた．審議の結果，承認され，社員総会で諮ることになった．

第２議案　2020年度決算報告について
山下理事長より，資料に基づき，2020年度決算報告が行われた．審議の結果，承認され，社員総会に諮ることとした．

第３議案　監査報告について
赤平監事より，2020年度事業報告および決算の監査結果について報告がなされた．監査は2021年４月27日に行われ，2020年度事業報告および決算ともに適正であるとの結論がなされたことが説明された．審議の結果，監査結果は承認され，社員総会で報告されることになった．

第４議案　統計教育委員会の改革について
山下理事長より，統計教育委員会の改革が提案された．現状では，統計教育委員会から選出された理事はいない状況であるが，これを改め，統計教育委員会から１名を理事会に加えることが提案された．

第５議案　日本統計学会委員会規程の改正について
山下理事長より，第４議案に関連した日本統計学会委員会規程の変更が提案された．審議の結果，承認され，社員総会に諮られることになった．

第６議案　日本統計学会統計教育委員会運用規則の改正について
山下理事長より，第４議案に関連した日本統計学会統計教育委員会運用規則の改正が提案された．審議の結果，承認され，社員総会に諮ることとした．

第７議案　日本統計学会小川研究奨励賞規程の改正について
山下理事長より，日本統計学会小川研究奨励賞規程の改正が提案された．具体的には，同賞における授賞の対象者の年齢を40歳未満としていたものを，35歳未満へと変更することが提案された．審議の結果，承認され，社員総会に諮られることとなった．

第８議案　臨時委員会の廃止について
山下理事長より，公的統計に関する臨時委員会の解散が提案された．審議の結果，承認され，社員総会にて報告されることとなった．

第９議案　ISI 基金による奨励賞及び助成金の支出について

川崎会長より，ISI 基金による奨励賞及び助成金の支出が提案され，審議の結果，承認された．

第10議案　2021年度補正予算について

山下理事長より，資料に基づき，補正予算が提案された．審議の結果，承認され，社員総会にて報告されることとなった．

第11議案　統計検定 CBT データサイエンスの開始に向けて

山下理事長および瀬尾理事より，「データサイエンス基礎（CBT）」，「データサイエンス発展（CBT）」を2021年６月以降に開始予定，また，「データサイエンスエキスパート（CBT）」が2022年開始に向けて準備中であることが報告された．また，統計検定試験の状況等についても説明がなされた．

第12議案　会員の入退会

山下理事長より，回収資料に基づき，入退会希望者が紹介された．審議の結果，承認が得られ，社員総会に提出することとした．

第13議案　社員総会招集の件

川崎会長より，社員総会を以下の通り招集する旨が提案され，承認された．

１．日時　2021年６月12日（土）13：30～15：00
２．場所　東京都立川市緑町10-3統計数理研究所 D508
（ハイブリッド出席型バーチャル総会として実施予定）
３．会議の目的
(1) 社員総会における通常の審議

一般社団法人　日本統計学会　委員会

日時：2021年５月８日（土曜日）午後３時45分～午後４時57分
場所：統計数理研究所 D508
ハイブリッド出席型バーチャル委員会として実施
Zoom（ミーティング ID：859 8377 5842）
出席：理事13名，監事３名，計16名
川崎茂会長，山下智志理事長，加藤昇吾，伊藤伸介，吉田靖，青嶋誠，吉羽要直，小池祐太，稲葉由之，松田安昌，菅澤翔之助，前田忠彦，瀬尾隆，赤平昌文（監事），岩崎学（監事），中西寛子（監事）

＜報告事項＞

１．JJSD 支援委員会

青嶋委員長より，JJSD の編集状況について説明がなされた．また，JJSD が Scopus（スコーパス）に採択され，関連した指標である CiteScore（サイトスコア）が付くことが報告された．

２．和文誌編集委員会

吉羽委員長より，和文誌第50巻２号を2021年３月に発刊したことが報告された．また，第51巻１号（2021年９月発刊予定）の編集状況，及び，第51巻２号（2022年３月発刊予定）の特集企画について説明があった．また，次期編集委員会への引き継ぎ事項について説明がなされた．

３．大会委員会

山下理事長と稲葉委員長より，2021年度統計関連学会連合大会がオンライン開催されることが報告された．

４．企画・行事委員会

稲葉委員長より，３月13日（土）に行われた第15回春季集会について開催報告がなされた．

５．庶務委員会

伊藤委員長より，会長選挙の結果，樋口知之会員が次期会長に当選したことが報告された．また，日本統計学会が以下の学術的会合を後援することが報告された．

・独立行政法人統計センター「第４回統計データ分析コンペティション」（総務省統計局，大学共同利用機関法人情報・システム研究機構統計数理研究所及び一般財団法人日本統計協会との共催）
・（公財）統計情報研究開発センター「第69回統計グラフコンクール」
・慶應義塾大学「第13回データビジネス創造コンテスト～ Digital Innovators Grand Prix 13（DIG13）～」

６．広報委員会

小池委員長より，会報187号が刊行されたことが報告された．

７．国際関係委員会

松田委員長より，台湾で開催予定だった台湾統計学会，韓国統計学会，日本統計学会共同開催の国際セッションが中止となったことが報告された．

８．渉外委員会

前田委員長より，科研費の2019年度再繰越及び2020年度繰越申請の承認について報告された．また，2021年度科研費の交付申請について説明がなされた．３篇の JJSD 掲載論文のオープンアクセス化のための費用（APC）を，2021年度科研費から負担する予定であることが報告された．

９．ISI 東京大会記念基金運営委員会

川崎委員長より，ISI 東京大会記念奨励賞の選考委員会の選考結果が報告された．

10．日本統計学会各賞選考委員会

川崎委員長より，日本統計学会各賞の選考委員会の選考結果が報告された．

11. その他
報告事項なし

＜審議事項＞
1．JJSD 支援委員会
審議事項なし
2．和文誌編集委員会
審議事項なし
3．大会委員会
審議事項なし
4．企画・行事委員会
審議事項なし
5．庶務委員会
審議事項なし
6．広報委員会
審議事項なし
7．国際関係委員会
審議事項なし
8．渉外委員会
審議事項なし
9．その他
審議事項なし

15. 理事会・委員会報告（2021年６月12日開催）

一般社団法人　日本統計学会　理事会

日時：2021年６月12日（土曜日）午後３時13分～午後５時10分
場所：東京大学大学院経済学研究科1301
ハイブリッド出席型バーチャル理事会として実施
Zoom（ミーティング ID：837 9072 9225）

理事の総数	14名	出席理事の数	14名
監事の総数	3名	出席監事の数	3名

出席者：
理事：樋口知之会長，大森裕浩理事長，小池祐太（庶務），加藤昇吾（庶務），吉田靖（会計），青嶋誠（JJSD），柳原宏和（会誌編集和文），中島上智（広報），吉羽要直（大会・企画・行事），菅澤翔之助（国際），各務和彦（国際），瀬尾隆（渉外），佐藤整尚（渉外），竹内光悦（教育），（以上14名，括弧内は役割分担）
監事：岩崎学，川崎茂，山下智志

第１議案　会長及び理事長の選出について
開会にあたり，被選理事長大森裕浩が選ばれ，暫時，議長を務めた．議長は，会長川崎茂と理事長山下智志が任期満了により退任することとなり，会長選挙の結果，樋口知之会員が被選会長として選ばれ，被選代議員会において大森裕浩代議員が被選理事長として選ばれた旨を述べた．これについて慎重に協議した結果，会長選挙規程および役員選任規程に則り，全員一致をもって，以下のとおり選定した．被選定者は，席上，その就任を承諾した．

会長　　樋口知之
理事長　大森裕浩
以降の議長は理事長が務めることとした．

第２議案　常設委員会における委員の交代について（資料１）
大森理事長より，資料に基づき，和文誌編集委員会，大会委員会，企画・行事委員会，庶務委員会，広報委員会，国際関係委員会，渉外委員会，統計教育委員会における委員の交代について説明がなされ，審議の結果，承認された．

和文誌編集委員会
岩佐学委員，川口淳委員，佐井至道委員，笛田薫委員，福地純一郎委員より江村剛志委員，ソルヴァン比呂子委員，柳原宏和委員，山村麻理子委員，若木宏文委員に交代（2021年６月12日付）

大会委員会
稲葉由之委員より吉羽要直委員に交代（2021年６月12日付）

企画・行事委員会
稲葉由之委員，小山慎介委員，田上悠太委員，間野修平委員，本橋永至委員より小方浩明委員，長倉大輔委員，中妻照雄委員，中山厚穂委員，星野崇宏委員，吉羽要直委員に交代（2021年６月12日付）

庶務委員会
生亀清貴委員，伊藤伸介委員より小池祐太委員，橋本真太郎委員に交代（2021年６月12日付）

広報委員会
明石郁哉委員，鎌谷研吾委員，小池祐太委員より城田慎一郎委員，高橋慎委員，中島上智委員に交代（2021年６月12日付）

国際関係委員会

松田安昌委員より各務和彦委員に交代（2021年６月12日付）

渉外委員会

酒折文武委員，前田忠彦委員より佐藤整尚委員に交代（2021年６月12日付）

統計教育委員会

青嶋誠委員，青山和裕委員，縣俊彦委員，浅井学委員，新井宏尚委員，飯田博和委員，和泉志津恵委員，伊藤彰彦委員，伊藤聡委員，伊原一委員，小口祐一委員，小野英夫委員，片岡正昭委員，狩野裕委員，金藤浩司委員，菊池進委員，倉田博史委員，櫻井尚子委員，迫田宇広委員，佐藤朋彦委員，柴田義貞委員，末永勝征委員，杉山高一委員，高橋由武委員，竹田裕一委員，竹村彰通委員，田中豊委員，田畑耕治委員，垂水共之委員，中條安芸子委員，中西寛子委員，大戸隆信委員，根本二郎委員，橋本紀子委員，馬場康維委員，馬場善久委員，濱田宗雄委員，深澤弘美委員，福井武弘委員，藤原丈史委員，程野眞委員，前園宜彦委員，槙田直木委員，松原望委員，丸山久美子委員，三浦由己委員，水田正弘委員，南美穂子委員，宮岡悦良委員，三宅章彦委員，村上正康委員，村上征勝委員，門間麻紀委員，柳沢文敬委員，矢野一幸委員，芳沢光雄委員，吉田朋広委員，依田源委員より高部勲委員に交代（2021年６月12日付）

第３議案　常設委員会における委員の再任について（資料１）

大森理事長により，資料に基づき，JJSD 支援委員会，和文誌編集委員会，渉外委員会，質保証委員会，統計教育委員会における委員の再任について説明があり，審議の結果，承認された．

JJSD 支援委員会

青嶋誠委員，浅井学委員，内田雅之委員，奥井亮委員，金森敬文委員，紙屋英彦委員，黒住英司委員，西郷浩委員，清水信夫委員，清水泰隆委員，清智也委員，谷崎久志委員，蛭川潤一委員，松井茂之委員，松浦峻委員，松田安昌委員，丸山祐造委員，宮田敏委員，矢田和善委員，柳原宏和委員，Chia-Lin Chang 委員，Ching-Kang Ing 委員，Ja-Yong Koo 委員，Shiqing Ling 委員，Michael McAleer 委員，Marcelo C. Medeiros 委員，Hee-Seok Oh 委員，Haipeng Shen 委員，Wing-Keung Wong 委員を再任（2021年６月12日付）

和文誌編集委員会

大野忠士委員，荻原哲平委員，佐藤整尚委員，田中未来委員，松井秀俊委員，吉羽要直委員を再任（2021年６月12日付）

渉外委員会

西郷浩委員，瀬尾隆委員，山下智志委員を再任（2021年６月12日付）

質保証委員会

瀬尾隆委員，国友直人委員，西郷浩委員，福地純一郎委員，矢島美寛委員を再任（2021年６月12日付）

統計教育委員会

岩崎学委員，景山三平委員，鎌倉稔成委員，川崎茂委員，栗原孝次委員，酒折文武委員，瀬尾隆委員，竹内光悦委員，田村義保委員，椿広計委員，藤井良宜委員，宿久洋委員，美添泰人委員，渡辺美智子委員を再任（2021年６月12日付）

第４議案　会員の入退会（回収資料）

大森理事長より，回収資料に基づき，入退会希望者が紹介され，審議の結果，承認された．

16. 社員総会報告

一般社団法人　日本統計学会　社員総会

日時：2021年６月12日（土曜日）午後１時30分～午後３時10分

場所：統計数理研究所 D508

ハイブリッド出席型バーチャル社員総会として実施

Zoom（ミーティング ID：827 6089 5005）

出席者：川崎茂会長，山下智志理事長

出席代議員：青嶋誠，足立浩平，伊藤聡，岩崎学，大森裕浩，金藤浩司，川崎能典，栗木哲，栗原考次，清水誠，瀬尾隆，高部勲，竹内光悦，竹村彰通，椿広計，富澤貞男，中野純司，西山慶彦，樋口知之，前園宜彦，松井知子，美添泰人，渡辺美智子

（以上25名，委任状提出５名）

定数の確認

川崎茂会長より，以下のように社員総会の決議の要件が満たされている旨説明があった．

(1) 社員の総数33名

(2) 総社員の議決権の数33個

(3) 出席社員の数（委任状による者を含む）30名（出席25，委任状５）
(4) 書面により議決権を行使した議決権の数０個
(5) これらの議決権の総数30個

オブザーバーの承認

川崎会長より，社員総会に次の４名が出席する旨説明があり，承認された．
吉田理事（会計），加藤理事（庶務），伊藤理事（庶務），小池理事（広報）

議事録署名人の提案と承認

川崎会長より，議事録署名人として岩崎学代議員，高部勲代議員に依頼する旨の説明があり，承認された．

審議事項

第１議案　2020年度事業報告及び決算に関する件（資料１）

川崎会長より，2020年度事業報告と決算報告について報告がなされた．また，山下理事長より2020年度事業報告，オブザーバーの吉田理事より決算報告についての追加の説明がそれぞれなされた．また，監事の岩崎代議員より監査結果について報告がなされ，2020年度事業報告および決算ともに適正であるとの結論がなされたことが説明された．審議の結果，2020年度事業報告と決算報告が共に承認された．

第２議案　日本統計学会委員会規程の変更に関する件

川崎会長より，日本統計学会委員会規程の以下の変更が提案された．（１）常時設置されている委員会は規程の付表によって定められているが，この付表を規程から削除し，ホームページでの公示により定めることを追記する．（２）常設委員会の廃止を理事会の議を経て可能にすることとする．これらの変更が審議の結果，承認された．

第３議案　日本統計学会統計教育委員会運用規則の変更に関する件

川崎会長より，日本統計学会統計教育委員会運用規則に関する以下の変更が提案された．（１）同委員会は代議員の若干名，および，社員総会が協議のうえ日本統計学会員内外から推薦した若干名から構成されているが，これを改め，同委員会の委員は理事会の議を経て会長が委嘱することとする．（２）委員会には委員長を会員の中より１名置くこととする．（３）委員会には委員を会員の中より数名置くこととする．これらの変更および第２議案の変更により，統計教育委員会から１名を理事会に加えることとなることも説明された．審議の結果，これらの変更は承認された．

第４議案　日本統計学会小川研究奨励賞規程の変更に関する件

川崎会長より，日本統計学会小川研究奨励賞規程を改正し，同賞における授賞の対象者の年齢を40歳未満としていたものを35歳未満へと変更することが提案された．審議の結果，この提案は承認された．

第５議案　臨時委員会の廃止に関する件

川崎会長より，公的統計に関する臨時委員会の廃止が提案された．審議の結果，承認された．

第６議案　新しい分科会の提案に関する件

川崎会長より，酒折文武会員（中央大学）を主査とするスポーツデータサイエンス分科会の新設が提案され，承認された．

第７議案　2022年度学会賞各賞の選考委員の承認に関する件

川崎会長より，2022年度の学会賞における「会長が推薦する選考委員」として會田雅人会員及び水田正弘会員を推薦され，審議の結果，承認された．

第８議案　理事の選任に関する件

理事（川崎茂，山下智志，伊藤伸介，青嶋誠，吉羽要直，小池祐太，稲葉由之，松田安昌，前田忠彦，瀬尾隆）及び現監事（赤平昌文，岩崎学，中西寛子）が本社員総会の終結と同時に任期満了し，退任することになる．その改選の必要があるため，川崎会長より，以下のように後任の理事及び監事を選任することが提案され，審議の結果，これを承認した．

理事　樋口知之，大森裕浩，小池祐太，青嶋誠，柳原宏和，中島上智，吉羽要直，各務和彦，佐藤整尚，瀬尾隆，竹内光悦
監事　岩崎学，川崎茂，山下智志（2021年６月12日付）

報告事項（理事会報告）

１．会員の入退会

山下理事長より，回収資料に基づき，会員の入退会について報告があった．

報告事項（委員会報告）

１．2021年度統計関連学会連合大会について

山下理事長より，2021年９月５日（日）～９日（木）に，2021年度統計関連学会連合大会がオンラインで開催されることが報告された．また，企画セッションとして，日本統計学会各賞授賞式，日本統計学会会長講演，日本統計学会各賞受賞者記念講演が予定されているとの説明があった．

一般社団法人　日本統計学会

2020 年度事業報告

(2020.4.1～2021.3.31)

学会の動向

日本統計学会は一般社団法人として 10 年目を迎え，2 年周期の学会事業の 5 期目の 2 年度を終えることになる．運営の経験を蓄積したことを生かして，川崎茂会長，山下智志理事長を含む 13 名の理事と 3 名の監事，および各種委員会における委員により，各種事業を着実に実施した．科学研究費「国際情報発信強化(B)」により，Japanese Journal of Statistics and Data Science の発行と国際セッションの実施が強化され，国際的な活動にも大きく貢献した年度であった．

2020 年 12 月 20 日現在の会員の数は 1,481 (名誉会員 16，正会員 1,392，準会員 6，学生会員 67)，これに加えて賛助会員 16 法人，団体会員 8 団体がいる．

Ⅰ．出版編纂事業

1. 和文誌の発行

和文誌 2 号[第 50 巻シリーズ J 第 1 号(2020 年 9 月)，第 50 巻シリーズ J 第 2 号(2021 年 3 月)]を発行した．内訳は原著論文 2 編，受賞者特別寄稿論文 5 編，特集論文 9 編，全 424 ページであった．

2. Japanese Journal of Statistics and Data Science 編集の支援

Japanese Journal of Statistics and Data Science 第 3 巻 (Issue 1, Issue2; 原著論文 34 編; 全 746 ページ)の発行に協力した． また，科学研究費助成事業 研究成果公開促進費「国際情報発信強化(B)」の採択により資金面での貢献ができた（なお，本科研費は国際的活動資金としても利用されている)．

3. 会報の発行

No.183 (4 月), No.184 (7 月), No.185 (10 月), No.186 (1 月) を発行した．

4. JSS Research Series in Statistics シリーズ(英文)の出版

昨年度に引き続き，JSS Research Series in Statistics シリーズの出版を行った．2020 年度は 5 冊(2021 年 1 月現在)が出版され，全 29 冊が出版済である．

Ⅱ．内外学界交流事業

1. 日本統計学会第 87 回大会の開催

2020 年 9 月 8 日(日)～12 日(木)，2020 年度統計関連学会連合大会の一環としてオンラインで開催した(開催校は東海大学)．当初は，富山国際会議場と富山県民会館で開催される予定であったが，新型コロナウィルス感染症感染拡大の影響により，完全オンラインで実施された．プレナリーセッションを行い，また，企画セッションとして，日本統計学会各賞受賞者講演(各賞授賞式)を行った．

［資料1］

2. 春季集会の開催

2021 年 3 月 13 日(土)に第 15 回春季集会がオンラインで開催された(開催校は統計数理研究所)．

3. 研究分科会の活動

以下の分科会が活動を行った．

「スポーツ統計分科会」(田村義保主査：2009 年 6 月発足，2021 年 5 月終了予定)

「統計教育分科会」(藤井良宜主査：2010 年 12 月発足，2023 年 3 月終了予定)

「計量経済・計量ファイナンス分科会」(福重元嗣主査(2019 年 4 月より末石直也主査)：2010 年 12 月発足，2023 年 3 月終了)

「女性統計家・データサイエンティスト育成分科会」(小野陽子主査：2019 年 4 月発足，2023 年 3 月終了予定)

4. 国際会議への協力

特になし．

Ⅲ．会員関係事業

1. 賞の授与

学会活動の活性化促進のため，以下の賞を授与した．

第 25 回日本統計学会賞：岩崎 学

第 16 回日本統計学会統計活動賞：公的統計ミクロデータコンソーシアム，統計データ利活用センター（総務省統計局・独法統計センター）

第 16 回日本統計学会統計教育賞：渡部 靖司，青森県企画政策部統計分析課

第 14 回日本統計学会研究業績賞：鎌谷 研吾

第 34 回日本統計学会小川研究奨励賞：澤 正憲，中島 上智

2. 各種委員会の活動

社員総会（2020 年 5 月 30 日，2021 年 3 月 12 日）を開催した．

理事会（2020 年 5 月 9 日，5 月 29 日，7 月 11 日，10 月 24 日，2021 年 2 月 6 日）を開催した．

春季集会に関係する理事監事および委員で構成される春季集会準備会合（11 月 7 日）を開催した．

役員・代議員協議会（2020 年 9 月 8 日）を開催した．

その他の各種委員会を適宜，開催した．

3. 広報活動の充実

メーリングリストの使用やウェブサイトの充実により，各種情報発信を促進した．

4. 入会者の拡大

若手研究者の入会を促進した．

Ⅳ．啓発普及事業

1.「統計検定」の実施協力

日本統計学会が認定団体となっている「統計検定」については，新型コロナウィルス感染症の影響で，紙媒体(2020 年 6 月 21 日，11 月 22 日)のよる試験が中止された．なお，CBT 方式による試験は，一般財団法人統計質保証推進協会により実施された．

2. MOOC による統計学講座の提供

MOOC のプラットフォーム gacco において，「統計学 I：データ分析の基礎」，「統計学 II：推測統計の方法」および「統計学 III：多変量データ解析法」を開講した．

Ⅴ．その他

1．東北大学大学院経済学研究科が創設した細谷賞を後援した．

第 2 回細谷賞：石原　卓弥，石原　昌和

2．日本統計学会中村隆英賞の新設

故中村隆英氏のご遺族からの寄付を受け，日本統計学会中村隆英賞を新設した．

3．第 2 回 ISI 東京大会記念奨励賞の募集開始

2 年ごとに開催される ISI World Statistics Congress が 2021 年 7 月にオランダを拠点としてオンライン開催されることとなったのに伴い，第 2 回 ISI 東京大会記念奨励賞の募集を開始した．

4．統計教育体制整備に関する緊急特別措置提言について

統計教育の体制整備に関して「統計教育体制整備に関する緊急特別措置提言について」を取りまとめ， 2020 年 6 月 5 日、萩生田紘一文部科学大臣に提出した．

5．大学入学共通テスト「情報」及びその学習指導に関する意見表明

2020 年 11 月に大学入試センターから公表された「情報」の試作問題に関して，「大学入学共通テスト『情報』及びその学習指導に関する意見」を取りまとめ，大学入試センター及び文部科学省の関係部局に提出した．

6．学会における統計教育事業のあり方について継続的に議論した．それをもとに教育事業を担当する理事の創設や教育委員会のガバナンスについて提案を行った．

7．定款および代議員選挙規程，会長選挙規程に従い，代議員選挙および会長選挙を行った．

8．投稿した論文が和文誌に掲載されてからの即時閲覧を可能にするために、和文誌のオープンアクセス化を行った．

[資料1]

事業報告附属明細書

附属明細書に記述すべき事項はない．

正味財産増減計算書　2020年4月1日～2021年3月31日　［資料1］（単位　円）

		2020年度予算	2020年度決算	備考
Ⅰ　一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益		**16,731,000**	**114,933,352**	
会費収入		**10,750,000**	**10,657,000**	
	名誉会員・正会員	10,087,000	9,841,000	
	学生会員	260,000	283,000	
	準会員	3,000	12,000	
	遡及請求分	400,000	521,000	
賛助法人費		**875,000**	**845,000**	
団体会員費		**320,000**	**320,000**	
科学研究費補助金等		**3,800,000**	**2,106,598**	科学研究費補助金
受取補助金		**－**	**100,000,000**	中村隆英賞寄付金
雑収入		**986,000**	**1,004,754**	
	会誌購読料	150,000	118,500	
	利子収入	1,000	1,620	
	広告収入	685,000	755,000	
	その他	150,000	129,634	著作権許諾料等
(2) 経常費用		**16,805,000**	**15,829,888**	
印刷費		**6,900,000**	**8,892,923**	
	会誌（和50-1、2）	3,200,000	5,449,317	*J-Stage経費を含む、ページ数増による費用増加
	英文誌	2,500,000	2,500,000	JJSDに関するSpringer Nature社業務委託費
	会報(183-186号)	800,000	624,162	
	名簿印刷費	0	0	奇数年度に発行
	その他印刷	400,000	319,444	会誌・会報の封筒、投票用紙等
大会開催費		**1,320,000**	**1,020,895**	
	春季集会開催費	1,000,000	589,119	オンライン開催
	春季集会懇親会参加費	▲ 270,000	0	*開催中止（参加費はマイナスの経費として計上）
	各賞運営経費	350,000	149,662	60周年記念基金充当（置時計、大会参加費）
	出版賞費	20,000	0	（75周年記念基金充当）
	小川賞費	120,000	205,874	*小川賞基金充当
	中村隆英賞費		41,040	*中村隆英賞基金充当
	その他大会開催費	100,000	35,000	連合大会賛助会員招待分
研究部会費		**0**	**0**	募集停止
研究分科会費		**200,000**	**200,000**	4件
学会運営会合費		**410,000**	**11,742**	
	社員総会、役員・代議員協議会	170,000	0	
	特別委員会	50,000	0	
	統計教育委員会	20,000	11,742	
	会誌編集委員会	20,000	0	
	理事会	150,000	0	
事務費		**696,000**	**261,908**	
	会費徴収費	446,000	162,168	カード決済手数料
	一般事務人件費	40,000	0	
	校正編集事務人件費	40,000	0	
	発送事務人件費	100,000	75,000	
	事務用品	40,000	12,440	
	その他	30,000	12,300	収入印紙
学会事務業務委託費		**2,712,000**	**2,712,000**	
通信・郵送費		**1,907,000**	**1,974,745**	
	会誌送料	405,000	642,434	*和文誌2号分、ページ数増による費用増加
	会報送料	790,000	680,169	
	名簿送料	12,000	0	
	その他通信・郵送料	700,000	652,142	
役員旅費補助		**300,000**	**0**	
各種分担金		**150,000**	**154,365**	
	日本経済学会連合	35,000	35,000	
	国際統計協会ISI	25,000	29,365	*2020年分
	横断型基幹科学技術研究団体連合	50,000	50,000	
	統計関連学会連合	40,000	40,000	
	その他	0	0	
ネットワーク維持費		**30,000**	**259,490**	*ドメイン維持費、サーバシステム更新
国際交流促進費		**200,000**	**0**	
名誉作成積立金		**0**	**0**	
統計検定関係費		**0**	**0**	
ホームページ更新費用		**0**	**0**	
租税公課		**70,000**	**70,000**	都民税
ISI 東京大会		**250,000**	**200,000**	事務委託費、ISI基金充当
国際情報発信強化		**1,660,000**	**72,000**	講演謝金
当期経常増減額		**▲ 74,000**	**99,103,464**	
（うち特定資産以外）		**666,000**	**▲ 299,940**	
（うち特定資産）		**▲ 740,000**	**99,403,424**	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
75周年記念事業員会資金追加譲受益		**0**	**0**	
当期経常外増減額		**0**	**0**	
一般正味財産期首残高		**80,251,865**	**80,996,717**	
一般正味財産期末残高		**80,177,865**	**180,100,201**	
Ⅱ　指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額		**0**	**0**	
指定正味財産期首残高		**0**	**0**	
指定正味財産期末残高		**0**	**0**	
Ⅲ　正味財産期末残高		**80,177,865**	**180,100,201**	
Ⅵ　予備費		**3,000,000**	**0**	

［資料1］

特定資産の増減及びその残高

（2021年3月31日現在）

特定資産の増減及びその残高は次のとおりである　（単位：円）

科　目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	摘　要
学会活動積立金	3,503,544	297	0	3,503,841	増加額は預金利息
60周年記念基金（注1）	1,178,261	48	147,654	1,030,655	増加額は預金利息
75周年記念基金	1,530,088	12	0	1,530,100	増加額は預金利息
ISI基金（注2）	39,944,482	344	200,440	39,744,386	増加額は預金利息
ICP基金（注3）	11,278,563	98	0	11,278,661	増加額は預金利息
小川基金会（注4）	3,003,983	24	207,648	2,796,359	増加額は預金利息
中村隆英賞基金（注5）	0	100,000,575	41,260	99,959,315	寄付金の入金により開設
合　計	60,438,921	100,001,398	597,002	159,843,317	

（注1）60周年記念基金の資金使途は学会賞（置時計、大会参加費）等

（注2）ISI基金の資金使途は事務局業務委託費等

（注3）ICP基金はICPセミナーフォローアップ事業基金

（注4）小川賞基金の資金使途は小川賞賞金等

（注5）中村隆英賞基金の資金使途は副賞の書籍購入費

附属明細書

貸借対照表及び正味財産増減計算書の附属明細書は財務諸表の注記に記載している。

一般社団法人　日本統計学会　2020年度　決算書(連結ベース)　（2021年3月31日現在）

貸借対照表　（単位　円）

借　方			貸　方		
科　目	期首	期末	科　目	期首	期末
Ⅰ資産の部			Ⅱ負債の部		
現預金	20,557,796	20,256,884	未払金	494,852	0
流動資産合計	20,557,796	20,256,884	**負債合計**	494,852	0
			Ⅲ正味財産の部		
学会活動積立金	3,503,544	3,503,841	指定正味財産	0	0
60周年記念基金	1,178,261	1,030,655	一般正味財産	80,501,865	180,100,201
75周年記念基金	1,530,088	1,530,100			
ISI基金	39,944,482	39,744,386			
ICP基金	11,278,563	11,278,661	（うち基本財産への充当額）	0	0
小川基金会	3,003,983	2,796,359			
中村隆英賞基金	0	99,959,315			
特定資産合計	60,438,921	159,843,317	（うち特定財産への充当額）	60,438,921	159,843,317
固定資産合計	60,438,921	159,843,317	**正味財産合計**	80,501,865	180,100,201
資産合計	80,996,717	180,100,201	**負債及び正味財産合計**	80,996,717	180,100,201

（注）ISI基金はISI東京大会記念事業基金。
　　ICP基金はICPセミナーフォローアップ事業基金。

[資料1]

監査報告書

私たち監事は、一般社団法人日本統計学会の 2020 年 4 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日までの理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果につき以下の通り報告いたします。

監査の方法及びその内容

各監事は、理事と意思疎通を図り、情報の収集および監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告にて検討いたしました。

さらに、当該事業年度に係る計算書類（正味財産増減計算書、貸借対照表）について検討いたしました。

監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

一. 事業報告及びその付属明細書は、法令及び定款に従い、学会の状況を正しく示しているものと認めます。

二. 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算書類の監査結果

計算書類は、学会の財産及び損益の状況を全ての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

2021 年 4 月 27 日

一般社団法人日本統計学会

監事　中西寛子　印

監事　岩崎学　印

監事　赤平昌文　印

一般社団法人　日本統計学会　　**2021年度　予算書**　　（2021年5月7日作成）

（単位 千円）

		21年度当初予算	21年度補正予算	備考
Ⅰ. 事業活動収支の部		▲ 3,031	▲ 10,114	=収入−支出=一般勘定増減+基金積立金増減
	一般勘定	29	▲ 494	
	学会活動積立金	0	0	
	60周年記念基金	▲ 350	▲ 400	統計学会賞・統計活動賞・研究業績賞の副賞、学会活動補助
	75周年記念基金	▲ 20	▲ 20	出版賞副賞
	ISI基金	▲ 250	▲ 5,550	ISI基金は2013年度より管理
	ICP基金	0	0	ICP基金は2013年度より管理
	小川基金会	▲ 120	▲ 330	小川基金会は2014年度より管理
	中村隆英基金	▲ 2,320	▲ 3,320	中村隆英基金は2020年度より管理
1. 事業活動収入		18,545	18,174	
会費収入		10,656	10,380	
	名誉会員・正会員	9,976	9,700	正会員8,000円(2,000円・1,000円)/年、名誉会員1,000円/年
	学生会員	268	268	4,000円/年
	準会員	12	12	1,500円/年
	遡及請求分	400	400	
賛助法人費		845	845	2020年度に1減
団体会員費		320	320	
科学研究費補助金		5,888	5,793	国際情報発信強化費(2019年度から2023年度まで),繰り越し分を含む
受取補助金		0	0	
雑収入		836	836	
	会誌購読料	150	150	
	利子収入	1	1	
	広告収入	585	585	
	その他	100	100	著作権許諾料等
経済学会連合会補助金		0	0	
2. 事業活動支出		21,576	28,288	
印刷費		7,950	7,950	
	会誌(51巻1,2号)	4,000	4,000	2号分の印刷
	英文誌	2,500	2,500	JJSDに関するSpringer Nature社業務委託
	会報(187−190号)	800	800	
	名簿印刷費	250	250	奇数年度に発行
	その他印刷費	400	400	会誌・会報の封筒作成等
大会等開催費		3,640	4,900	
	春季集会開催費	1,000	1,000	懇親会開催経費を含む
	春季集会懇親会収入	▲ 270	▲ 270	学会会計には入金されないのでマイナス費用として計上
	各賞運営経費	350	400	統計教育賞(一般勘定)、懇親会招待、表彰状副賞(60周年記念基金充当)
	出版賞費	20	20	75周年記念基金充当
	小川賞費	120	330	小川基金会充当
	中村隆英賞費	2,320	3,320	中村隆英賞基金充当(賞金、懇親会招待、事務業務委託費、会合費等)
	その他大会開催費	100	100	賛助会員の連合大会参加費補等
研究分科会費		200	200	1件5万円
学会運営会合費		410	410	
	社員総会、役員・代議員協議会	170	170	会場利用料を含む
	特別委員会	50	50	
	統計教育委員会	20	20	
	会誌編集委員会	20	20	
	理事会	150	150	
事務費		444	441	
	会費徴収費	194	191	カード決済の手数料
	一般事務人件費	40	40	
	校正編集事務人件費	40	40	
	発送事務人件費	100	100	
	事務用品	40	40	
	その他	30	30	事務員の交通費、収入印紙等
学会事務業務委託費		2,712	2,712	中村隆英賞費およびISI事務業務委託費を除く
通信・郵送費		1,907	2,102	
	会誌送料	405	600	
	会報送料	790	790	
	名簿送料	12	12	
	その他通信・郵送料	700	700	
役員旅費補助		200	150	理事会における理事の旅費等
各種分担金		125	160	
	日本経済学会連合	35	35	
	国際統計協会ISI	0	35	
	横断型基幹科学技術研究団体連合	50	50	
	統計関連学会連合	40	40	
	その他	0	0	
ネットワーク維持費		30	100	ドメイン使用料、学会サーバー委託費、Web名簿維持費
国際交流促進費		200	200	
統計検定関係費		0	0	
ホームページ更新費用		50	50	
租税公課		70	70	
ISI 東京大会		250	5,550	ISI基金充当:事務業務委託費20万円、奨励賞50万円、IASC−ARS 500万円等
国際情報発信強化費(英文誌印刷費を除く)		3,388	3,293	JJSDセッション講演者招聘,台湾統計学会派遣等
Ⅱ. 投資活動収支の部		0	0	
投資活動収入		0	0	
投資活動支出		0	0	
Ⅲ. 予備費		5,000	5,000	支出合計に含まない

２．2021年３月開催の春季集会の報告

山下理事長より，2021年３月13日（土）にオンラインで開催された第15回日本統計学会春季集会について報告がなされた．

３．2021年度補正予算について（資料２）

山下理事長より，資料に基づき，補正予算について報告がなされた．

４．日本統計学会各賞受賞者の紹介

川崎会長より，資料に基づき，日本統計学会各賞の受賞者について以下のように報告があった．

第26回 日本統計学会賞：内田 雅之氏

第１回 日本統計学会中村隆英賞：高山 憲之氏，西村 清彦氏，美添 泰人氏

第17回 日本統計学会統計活動賞：竹内 光悦氏，西浦 博氏

第17回 日本統計学会統計教育賞：林 宏樹氏，Women in Data Science（代表：小野 陽子氏，菅 由紀子氏，西戸 京子氏）

第15回 日本統計学会研究業績賞：二宮 嘉行氏

第14回 日本統計学会出版賞：該当なし

第35回 日本統計学会小川研究奨励賞：今泉 允聡氏，菅澤 翔之助氏，劉 言氏

報告事項（その他）

１．特別委員会からの報告

学会組織特別委員会川﨑能典委員長より，2021年３月12日開催の社員総会における報告「準会員制度のあり方について」に関連して，国内他学会の会員種別・会費についての調査結果が報告された．

２．統計教育委員会からの報告

統計教育委員会竹内委員長より，資料に基づき，統計教育委員会の以下の活動等が紹介された：理数系学会教育問題連絡会への参加，統計関連学会連合大会における企画セッションの提案，オンラインセミナーの開催，「第18回 統計教育の方法論ワークショップ・理数系教員授業力向上研修会」（実行委員長：椿広計）のオンライン開催．

３．分科会活動報告

山下理事長より，資料に基づき，計量経済・計量ファイナンス分科会，スポーツ統計分科会，統計教育分科会，女性統計家・データサイエンティスト育成分科会の各分科会の活動について報告があった．また，計量経済・計量ファイナンス分科会の主査は，2019年４月より福重元嗣会員（大阪大学）から末石直也会員（神戸大学）に変更したことの説明があった．

川崎会長，山下理事長より退任の挨拶があった．また，樋口被選会長，大森被選理事長より挨拶があった．

17. 博士論文・修士論文の紹介

最近の博士論文・修士論文を原稿到着順に紹介いたします．（1）氏名（2）学位の名称（3）取得大学（4）論文題名（5）主査または指導教員（6）取得年月の順に記載いたします．

博士論文

●（1）中村知繁（2）博士（工学）（3）慶應義塾大学（4）Robust causal inference via subclassification and covariate balancing methods（層別化法と共変量釣り合い法による頑健な因果効果の推定）（5）南美穂子（6）2021年２月

●（1）万可（2）博士（情報科学）（3）北海道大学（4）感性及び医療データにおけるプロダクションルール指向な統計解析手法に関する研究（5）水田正弘（6）2021年３月

●（1）牧草夏実（2）博士（理学）（3）千葉大学（4）Goodness of Fit Tests in Hilbert Spaces（5）内藤貫太（6）2021年３月

修士論文

●（1）上本拓弥（2）修士（理学）（3）千葉大学（4）Support Vector Regression with Penalized Likelihood（5）内藤貫太（6）2021年３月

●（1）三次琢巳（2）修士（理学）（3）千葉大学（4）一般化線形モデルにおける擬 Huber 関数によるロバスト推測（5）内藤貫太（6）2021年３月

●（1）上山咲紀（2）修士（工学）（3）東京理科大学（4）がん第１相臨床試験における複数用量の毒性発現情報を考慮した keyboard design の構

築（5）寒水孝司（6）2021年３月
●（1）太田愛作（2）修士（工学）（3）東京理科大学（4）がん第１相臨床試験における２剤併用療法の Interval design の改良（5）寒水孝司（6）2021年３月
●（1）福島龍一（2）修士（工学）（3）東京理科大学（4）傾向スコアモデルにおける変数の重要度を考慮した Outcome-Adaptive Lasso の構築（5）寒水孝司（6）2021年３月
●（1）三浦南（2）修士（工学）（3）東京理科大学（4）２段階ランダム化臨床試験における導入療法と維持療法の治療効果の推定（5）寒水孝司（6）2021年３月
●（1）山田桃香（2）修士（工学）（3）東京理科大学（4）臨床試験における主要評価変数の型と変数間の相関を考慮した標本サイズ設計法の提案（5）寒水孝司（6）2021年３月

18. JSS Research Series in Statistics からの新刊情報

日本統計学会編の書籍シリーズ JSS Research Series in Statistics からの新刊情報を掲載します.

●星野伸明／間野修平／志村隆彰『Pioneering Works on Extreme Value Theory: In Honor of Masaaki Sibuya』Springer，2021年６月，冊子体：57.19ユーロ
内容紹介：極値理論の論文集．四母数ベータ分布，経験ベータコピュラ，希な事象の二項回帰，台のセミパラメトリック推定についての新しい結果を含む．本邦河川の治水実務における極値理論利用についての統計家向け論考も掲載.

●明石郁哉／谷口正信／ Anna Clara Monti ／天野友之『Diagnostic Methods in Time Series』Springer，2021年６月，冊子体：57.19ユーロ
内容紹介：本書では様々な統計モデルへの診断手法を紹介する．特にモデルの無限分散性や母数の真値が母数空間の境界上にある場合などの非正則な設定の枠組みで，統計量の高次漸近的性質，因果性の検定などの結果を紹介する.

19. 教員公募

明治大学　理工学部　機械情報工学科　教員公募

１．募集人員　専任准教授または専任講師　１名（独立研究室）
２．所属　明治大学理工学部機械情報工学科
３．専門分野　知覚情報処理，知能ロボティクス，知能情報学，ヒューマンインターフェース・インタラクションおよびその関連分野
４．担当科目
学部：画像処理などの情報系講義科目，実験・実習科目，ゼミナール，卒業研究　など
大学院：知的情報論や人工知能論などに関する講義および研究指導
５．応募資格
①博士の学位を有すること.
②学科・学部・大学運営に積極的に取り組めること.
③機械工学教育に理解があり，知的情報処理や人工知能に関する学生指導ができること.
④日本語による十分なコミュニケーション能力を有すること．日本語による教育・研究指導ができること.
６．着任時期　2022年４月１日
７．提出書類
（1）履歴書　本学指定様式を※１よりダウンロードし，写真貼付のこと.

（2）業績書　本学指定様式を※1よりダウンロードし記入すること．
・ダウンロードファイル中の「(2) 学術論文」に関して，「5年以内」と書かれているが，原著学術論文（査読有りに限る）と国際会議 proceedings（査読有りに限る）に分けて5年に限らず全て記入すること．また，全著者名と応募者本人の順番を明記すること．
・「2　特許」において，取得特許，公開特許等の別を明記し，全発明者名と応募者本人の順番を明記すること．
・「学会発表」は最近の5年以内のものを記述し，他○○件としてよい．
・項目に記述する内容が無い場合は，項目を削除せずに「無し」と記述すること．

（3）研究業績集計リスト　学科指定 Excel ファイルを※2よりダウンロードして記入した印刷物

（4）原著学術論文5編以内の別刷り（複写可）とその概要各200字以内

（5）教育・研究についての考え方1500字以内

（6）応募者について意見を伺うことができる2名の方の氏名，所属，連絡先住所，電話番号，E-mail アドレス

（7）上記の（1）から（6）までの電子ファイルを保存したメディア（CD/USB 等）ただし，履歴書，業績書は写真，署名，捺印を除く Word ファイル，研究業績

集計リストは Excel ファイル，他の書類は PDF ファイルとする．

8．選考方法　書類による一次審査を行い，その合格者に対して面接試問（プレゼンテーションを含む）による二次審査を実施する．

9．応募締切　2021年8月23日（月）必着

10．書類提出先および問い合わせ先

〒214-8571
神奈川県川崎市多摩区東三田1－1－1
明治大学　理工学部　機械情報工学科
学科長　舘野　寿丈
電話　044（934）7309
E-mail　tateno@meiji.ac.jp

※封筒には「教員応募書類在中」と朱書きし，簡易書留で送付のこと．なお，応募書類は返却しません．

※1　理工学部教員公募ページ　https://www.meiji.ac.jp/sst/recruit/

※2　機械情報工学科公募ページ
https://www.messe.meiji.ac.jp/koubo/koubo.html

11．その他　男女共同参画社会の実現に向けて，女性研究者の積極的な応募を期待します．男女共同参画推進センターホームページ
https://www.meiji.ac.jp/koho/diversity/

20．学会事務局から

学会費払込のお願い

2021年度会費の請求書が会員のお手元に届いていることと思います．会費の納入率が下がると学会会計に大きく影響いたします．速やかな納入にご協力をお願い申し上げます．便利な会費自動払込制度もご用意しています．次の要領を参照の上，こちらもご活用下さい．また，クレジットカードでの学会費払込も受け付けております．お申込みは学会ホームページよりお願いいたします．
(https://www.jss.gr.jp/fee/)．

学会費自動払込の問合せ先

学会費自動払込問合せの旨とともに，氏名と住所を以下にお伝えください．手続きに必要な書類が送付されます．

〒101-0051　東京都千代田区神田神保町3-6
能楽書林ビル5F
公益財団法人統計情報研究開発センター内

日本統計学会担当
Tel & Fax：03-3234-7738
E-mail：shom@jss.gr.jp

入会承認

相澤宥斗，井上雅章，大井達雄，奥野彰文，尾関暁史，金子愛，金子亮介，神田博，合田智一，酒井玲美，榊原康介，佐々木洋介，佐藤孝弘，佐藤陽一，新久章，杉山学，鈴木一克，関洋輔，髙澤祐槻，髙橋雅夫，田代英男，塘由惟，豊田祥史，南茂尚義，西野洋平，長谷川貴大，林宏太郎，別府健治，松井弘道，簔口睦美，矢内勇生，柳泉穂，山内雄太，吉川保夫，若山智哉，野村アセットマネジメント株式会社　（敬称略）

退会承認

磯貝恭史，伊藤孝之，上本拓弥，鵜飼信一，岡田達也，川上諒，神田博，金燕春，熊澤美裕紀，後藤昌司，薦田隆成，関利之，高崎滋之，田中研太郎，南茂尚義，長谷川亮，早川有，林文，兵頭昌，藤井光昭，藤井義靖，藤崎恒晏，星野匡郎，三田晴義，宮川雅巳，安田憲治，㈱ニッセイ基礎研究所　（敬称略）

長期連絡不能により退会したとみなされた会員

大濱巌，押目恭克，金木勇志，狩野修平，久保裕太郎，佐藤卓裕，豊田義純，永井利昌，長島孝至，野北明寛，野村亮介，林崇弘，古屋俊和，本田啓介，矢野浩一，山下陽司　（敬称略）

現在の会員数（2021年６月12日）

名誉会員	15名
正会員	1,382名
準会員	8名
学生会員	56名
総計	1,461名
賛助会員	17法人
団体会員	7団体

21. 投稿のお願い

統計学の発展に資するもの，会員に有益であると考えられるものなどについて原稿をお送りください．以下のような情報も歓迎いたします．

●来日統計学者の紹介

訪問者の略歴，滞在期間，滞在先，世話人などをお知らせください．

●博士論文・修士論文の紹介

（1）氏名（2）学位の名称（3）取得大学（4）論文題名（5）主査または指導教員（6）取得年月をお知らせください．

●求人案内（教員公募など）

●研究集会案内

●新刊紹介

著者名，書名，出版社，税込価格，出版年月をお知らせください．紹介文を付ける場合は100字程度までとし，主観的な表現は避けてください．

●会員活動紹介（叙勲・受章，各種受賞等）

できるだけ e-mail による投稿，もしくは，文書ファイル（テキスト形式）の送付をお願い致します．

原稿送付先：

〒103-0021
東京都中央区日本橋本石町2-1-1
日本銀行 調査統計局
中島 上智　宛
E-mail：koho@jss.gr.jp
（統計学会広報連絡用 e-mail アドレス）

- 統計学会ホームページ URL：
  https://www.jss.gr.jp/
- 統計関連学会ホームページ URL：
  http://www.jfssa.jp/
- 統計検定ホームページ URL：
  http://www.toukei-kentei.jp/
- 住所変更連絡用 e-mail アドレス：
  meibo@jss.gr.jp
- 広報連絡用 e-mail アドレス：
  koho@jss.gr.jp
- その他連絡用 e-mail アドレス：
  shom@jss.gr.jp